

マネジメント研究科 マネジメント研究科 専門職学位課程 (2018年度入学)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■アドバンスト科目	マーケティング戦略 柳瀬 隆志	2学期	1	2	1
		1年			
	パブリック・マネジメント 工藤 一成	1学期	1	2	2
		1年			
■エグゼクティブ科目	サービス・マネジメント 桑野 和泉	2学期	1	2	3
		1年			
	地域プロジェクト・マネジメント 林田 暢明	2学期	2	2	4
		2年			
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションI 休講	1学期	1	2	
		1年			
	グループ・ディスカッションI 城戸 宏史	1学期	1	2	5
		1年			
	グループ・ディスカッションI 休講	1学期	1	2	
		1年			
	グループ・ディスカッションI 高橋 秀直	1学期	1	2	6
		1年			
	グループ・ディスカッションI 休講	1学期	1	2	
		1年			
	グループ・ディスカッションI 休講	1学期	1	2	
		1年			
	グループ・ディスカッションI 休講	1学期	1	2	
		1年			
	グループ・ディスカッションI 松永 裕己	1学期	1	2	7
		1年			
グループ・ディスカッションII 王 効平	2学期	1	2	8	
	1年				
グループ・ディスカッションII 城戸 宏史	2学期	1	2	9	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	10
	工藤 一成	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	11
	高橋 秀直	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	12
	武田 寛	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	13
	鳥取部 真己	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	14
	任 章	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	15
	松田 憲	1年			
	グループ・ディスカッションII	2学期	1	2	16
	松永 裕己	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■ベーシック科目	経営戦略 高橋 秀直	1学期	1	2	17
		1年			
	マーケティング 松田 憲	1学期	1	2	18
		1年			
	アカウンティング 任 章	1学期	1	2	19
		1年			
	ファイナンス 武田 寛	2学期	1	2	20
		1年			
組織とイノベーション 鳥取部 真己	2学期	1	2	21	
	1年				
マネジメント入門 未定	1学期	1	2	22	
	1年				
経済学入門 畔津 憲司 他	1学期	1	2	23	
	1年				
■アドバンスト科目	知識マネジメント 永田 晃也	1学期	1	2	24
		1年			
	国際ビジネス・スキル アダム・ヘイルズ	1学期	1	2	25
		1年			
	ロジスティックス 幕 亮二	2学期	2	2	26
		2年			
	問題解決スキル 齋藤 朗宏	1学期	1	2	27
		1年			
	チーム・マネジメント 池田 浩	集中	2	2	28
		2年			
国際経営 王 効平	1学期	1	2	29	
	1年				
地域づくり総論 城戸 宏史	2学期	2	2	30	
	2年				
会社法 舞田 靖子	2学期	2	2	31	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■アドバンスト科目	管理会計 市原 勇一	2学期	2	2	32
	2年				
	財務諸表分析 任 章	2学期	1	2	33
	1年				
	人材マネジメント 鳥取部 真己	2学期	1	2	34
	1年				
	地域産業 城戸 宏史	2学期	2	2	35
	2年				
	環境ビジネス 松永 裕己	1学期	2	2	36
	2年				
	経営倫理と企業法務 舞田 靖子	1学期	1	2	37
	1年				
■エグゼクティブ科目	ベンチャー・ビジネス 八木田 一世	2学期	1	2	38
	1年				
	戦略的提携と事業創造 瀬戸 大樹	1学期	2	2	39
	2年				
	フィナンシャル・インベストメント 武田 寛	1学期	2	2	40
	2年				
	中国ビジネス 迫 和男	1学期	2	2	41
	2年				
	医療マネジメント 石井 義輝	2学期	2	2	42
	2年				
	福祉マネジメント 桑園 英俊	1学期	2	2	43
	2年				
自治体政策 幕 亮二	1学期	2	2	44	
2年					
モノづくり競争力の強化 緒方 光	集中	1	2	45	
1年					
ソーシャル・ビジネス 松永 裕己	2学期	1	2	46	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■エグゼクティブ科目	医療経済 石井 義輝	2学期	1	2	47
		1年			
	社会保障 工藤 一成	2学期	1	2	48
		1年			
	自治体政策 幕 亮二	1学期	1	2	49
		1年			
	産学連携と事業創造 城戸 宏史	2学期	2	2	50
		2年			
	アジア型経営 王 効平	2学期	2	2	51
		2年			
	NPO / NGO実践論 古賀 桃子	2学期	2	2	52
		2年			
	中華圏の経営思想 王 効平	2学期	1	2	53
		1年			
中華圏の貿易実務 増田 正美	2学期	2	2	54	
	2年				
ビジネス中国語 彭 立君	1学期	1	2	55	
	1年				
経営学特講 王 効平	集中	1	2	56	
	1年				
■プロジェクト研究科目	プロジェクト研究I 王 効平	1学期	2	2	57
		2年			
	プロジェクト研究I 城戸 宏史	1学期	2	2	58
		2年			
	プロジェクト研究I 工藤 一成	1学期	2	2	59
		2年			
	プロジェクト研究I 高橋 秀直	1学期	2	2	60
		2年			
	プロジェクト研究I 武田 寛	1学期	2	2	61
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■プロジェクト研究科目	プロジェクト研究I 鳥取部 真己	1学期	2	2	62
		2年			
	プロジェクト研究I 任 章	1学期	2	2	63
		2年			
	プロジェクト研究I 松田 憲	1学期	2	2	64
		2年			
	プロジェクト研究I 松永 裕己	1学期	2	2	65
		2年			
	プロジェクト研究II 王 効平	2学期	2	2	66
		2年			
	プロジェクト研究II 城戸 宏史	2学期	2	2	67
		2年			
	プロジェクト研究II 工藤 一成	1学期	2	2	68
		2年			
	プロジェクト研究II 高橋 秀直	2学期	2	2	69
		2年			
プロジェクト研究II 武田 寛	2学期	2	2	70	
	2年				
プロジェクト研究II 鳥取部 真己	2学期	2	2	71	
	2年				
プロジェクト研究II 任 章	2学期	2	2	72	
	2年				
プロジェクト研究II 松田 憲	2学期	2	2	73	
	2年				
プロジェクト研究II 松永 裕己	2学期	2	2	74	
	2年				

マーケティング戦略【昼】

担当者名 柳瀬 隆志 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 実践的なマーケティング活動を理解し、使いこなすための知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	◎ 課題に応じたマーケティング戦略を構築することができる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 経営上の課題を発見し、マーケティング活動によって解決する力を修得する。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

マーケティング戦略

授業の概要 /Course Description

前半は、ホームセンターの経営における企業ブランドの育成事例を元に、企業でのブランド戦略について考える。企業のCMやウェブサイトのデザインを制作する際、顧客のイメージ調査なども参考にしつつ、企業の経営戦略やブランド戦略を、どのようにクリエイティブに落とし込むかについて、具体的なケースに基づいて検討・議論する。

後半は、セルフサービスBIツール「Tableau」の使用方法についてのハンズオン講習も行って習得した上で、POSデータやオープンデータ等の様々なデータを実際に手を動かしながら分析し、企業の実務でどの様にデータを活用するのかを学ぶ。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

データ分析ツールを利用し、様々なデータを分析出来る

< 高い問題解決能力と表現力 >

自社の課題を整理し、ブランド構築の考え方を知ることが出来る

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

自社の社会的役割やミッションを、ステークホルダーに説明できる。

教科書 /Textbooks

投影資料及びレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ブランド論 --無形の差別化を作る20の基本原則」 2,640円 ダイアモンド社 著者: デービッド・アーカー

「Tableauによる最強・最速のデータ可視化テクニック ~データ加工からダッシュボード作成まで~」 3,740円 翔泳社 著者: 松島 七衣

「Tableauで始めるデータサイエンス」 4,180円 秀和システム 著者: 岩橋 智宏、今西 航平、増田 啓志

マーケティング戦略 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 企業におけるマーケティングとは？【ガイダンスと授業の概観】
2. ブランド戦略
3. ディスカッション:ブランドとは？
4. ケーススタディ1:【ホームセンター「GooDay」のブランド戦略】
5. ケーススタディ1:【ディスカッション】
6. CM制作:【企業CM制作の流れ】
7. グループワーク1:【模擬CMの制作】
8. ゲスト講師:【CM制作の実際】
9. ディスカッション
10. 企業におけるデータ分析:【嘉穂無線ホールディングス株式会社の取組事例】
11. データ分析:【セルフサービスBI「Tableau」の紹介】
12. 実習1:【「Tableau」の基本操作①】
13. 実習2:【「Tableau」の基本操作②】
14. AI×BIの活用
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50%、レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習の内容については、授業の後も興味あるデータなどを用いて自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ マーケティングの基礎的な理論に加え、データ分析においては統計の知識をもっていた方が授業の内容をより深く理解できます。
- ・ 模擬CMの制作も予定していますので、スマホやPCによる簡単な動画編集のやり方なども調べておいて下さい。
- ・ データ分析実習で使用するTableauを各自のPCにインストールしてもらいます。具体的な方法については、授業の中で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中で、実際のCMの絵コンテや、売上データなども提供し、出来るだけ企業の実務に即した内容にしていきたいと思っています。

キーワード /Keywords

ブランド、データ分析、小売業

パブリック・マネジメント【昼】

担当者名 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 公共セクターの特性と仕組み、制度の専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 公共セクターの機能、役割などについて、事例などを通じて調査分析できる。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 公共性の意義を十分理解し、公的業務に従事する職業倫理を有する。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 公的課題の解決に積極的に取り組むリーダーシップを身につける。
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

パブリック・マネジメント

授業の概要 /Course Description

社会課題を解決するための公共サービスのあり方については、その主な担い手が国や自治体から民間の営利・非営利法人や地域コミュニティへとシフトしており、「政府・行政＝公」、「官民連携あるいは民主導＝公共」という理解が広がっています。伝統的な「行政管理」または公的部門に民間の経営手法を導入する「公経営」から、官民が対等の立場で、あるいは民主導によって社会課題の解決を事業化しようとする「公共経営（パブリック・マネジメント）」への変革が行われてきたわけです。

歴史的に見ると、1970年代～80年代においては米国のレーガノミクス、英国のサッチャリズムによってNPM（New Public Management：新しい公共経営）と呼ばれる取り組みがなされるとともに、わが国においては1980年代からの規制改革や公益法人改革などによって市場原理の導入が進められました。

今後はこれまでのNPMの成果を踏まえて、ポストNPMの取組み、すなわち公共的なサービスの最終消費者でありステークホルダーとしての市民や企業を主体とするNPG（New Public Governance：公共ガバナンス）が重要となります。また、そこでは公共を支える公正や社会正義の概念、さらには高度な職業倫理がこれまで以上に重視されるべきでしょう。

本講座では、これらの歴史的経緯と制度的内容、実践例などを紐解き、NPMやNPGを包含する概念としての公共経営（パブリック・マネジメント）における新しい方法論や事業構築を模索し、さらには今後の経済社会の枠組みを展望します。

DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

公共経営に関連する概念や用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

問題を発見し、課題として設定するとともに、その解決に向けた制度やビジネスモデルを構想し、設計できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

構想し、設計した制度やビジネスモデルを社会的正義や公正の概念と現実的なプロセスによって実践できる。

教科書 /Textbooks

毎回の授業において、資料を配布します

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『公共経済学』小塩隆士 東洋経済新報社
- 『自治体職員かく生きる』自治体活性化研究会編著 生活福祉研究機構
- 『非営利組織の経営』P.F.ドラッカー ダイアモンド社
- 『公共哲学』マイケル・サンデル ちくま学芸文庫

パブリック・マネジメント 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| ① 公共経営総論 (1) | 【公共とは何か、歴史、公共セクターの役割や特性】 |
| ② 公共経営総論 (2) | 【信頼、職業倫理、ソーシャルキャピタルの概念、ガバナンス】 |
| ③ グループ討議 | 【学生による討議と発表】 |
| ④ 公共経営総論 (3) | 【NPMとNPG】 |
| ⑤ 公共経営総論 (4) | 【財政と公共ガバナンス】 |
| ⑥ 公益事業とその担い手 (1) | 【公益事業とその経営組織 (営利・非営利)】 |
| ⑦ 公益事業とその担い手 (2) | 【公益法人やNPOとその事業構築、活動資金】 |
| ⑧ グループ討議 | 【学生による討議と発表】 |
| ⑨ 公共サービスの改革 (1) | 【官民連携とガバナンス】 |
| ⑩ 公共サービスの改革 (2) | 【ゲストスピーカー：NPO法人役員など】 |
| ⑪ グループ討議 | 【学生による討議と発表】 |
| ⑫ 公共サービスの改革 (3) | 【公共法人等の多様化とガバナンス】 |
| ⑬ 公共サービスの改革 (4) | 【ゲストスピーカー：自治体幹部職員など】 |
| ⑭ まとめ (1) | 【小論文の提出とプレゼンテーション】 |
| ⑮ まとめ (2) | 【小論文の提出とプレゼンテーション】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への態度、姿勢、貢献度・・・ 25%、期末小論文の提出とプレゼンテーション・・・ 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の資料については、MOODLEにアップしますので、一読して授業に臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業においては、適宜、質問や自発的な意見発表が行われることを歓迎します。

キーワード /Keywords

公と公共、公正と社会正義、ソーシャルキャピタル、私益と公益、自助・互助・共助・公助、NPM、規制改革、官民パートナーシップ、NPG

サービス・マネジメント【昼】

担当者名 /Instructor 桑野 和泉 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ サービスビジネスとそのマネジメントに関連する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ サービスビジネスの事業構想を企画する力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ サービスビジネスの専門的知識を活かして、組織を変革する力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

サービス・マネジメント

授業の概要 /Course Description

1970年代以降、わが国ではサービス産業のシェアの拡大が顕著となり、今日に到るまでサービス経済化が進んでいます。その間、リゾート・ブームや最近のインバウンド市場の拡大など観光業の位置づけは高まっています。しかしながら、その現場はごく一部を除くと、試行錯誤の連続でサービス・マネジメントやホスピタリティ・マネジメントを体系的に整理し、実践しているとは言い難い状況にあります。

そこで、本講義では、受講者の皆さんとともに、宿泊業をはじめとした観光業の事例を抛り所に、サービスならびにホスピタリティの本質について考察・検討を行なって、多様なサービス業での応用を試みます。また同時に、由布院の観光まちづくりの事例から、まちにおけるサービスやホスピタリティのあり方について展望します。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門知識・技能 >

サービスとホスピタリティの概念を十分に理解し、実際の事業活動の中で実践できる

< 高い問題解決能力と表現力 >

サービス活動の個別要素を分析し、不足している部分を補う手段を具体的に提案できる

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

地域等で共同で行うべき活動を見出し、率先して行動できる

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

服部勝人「ホスピタリティ学のすすめ」 丸善出版

クリストファー・ラブロック/ヨッハン・ウィルツ「サービス・マーケティング」 ピアソンエデュケーション

大澤健・米田誠司「由布院モデル」 学芸出版社

サービス・マネジメント【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション：講義の進め方と由布院・玉の湯の概要
【保養温泉地】【旅館】【接客業】【癒し】【由布院ブランド】
 - ②由布院の地域づくりの歴史（１）
【ダム化計画】【奥別府】【ゴルフ場計画】【明日の由布院を考える会】【保養温泉地】
 - ③由布院の地域づくりの歴史（２）
【辻馬車】【牛食い絶叫大会】【ゆふいん音楽祭】【湯布院映画祭】【潤いのあるまちづくり条例】
 - ④地域共生と由布院ブランド
【景観保全】【由布院観光総合事務所】【ゆふいんの森号】
 - ⑤由布院ブランドにおける玉の湯のポジションと役割
【小規模点在の宿泊施設】【棲み分け】【地域文化】
 - ⑥サービス施設としての玉の湯の特徴
【サービス・マーケティング】【8P】
 - ⑦玉の湯のおもてなしとホスピタリティ
【おもてなし】【料理】【雑木林】【時間消費】【地域文化】
 - ⑧身の丈経営と経営継承の実際
【事業継承】【継続性】【中小企業】
 - ⑨インバウンド対応とホスピタリティ人材
【グローバル化】【多文化共生】【従業員満足】【人材育成】
 - ⑩注目しているサービス組織・ホスピタリティ組織（１）
 - ⑪注目しているサービス組織・ホスピタリティ組織（２）
 - ⑫注目している観光地域・集客地域（１）
 - ⑬注目している観光地域・集客地域（２）
 - ⑭これからのサービス&ホスピタリティ・マネジメント（１）
 - ⑮これからのサービス&ホスピタリティ・マネジメント（２）
- 受講者の皆さんと相談のうえで、
由布院での講義・フィールドワークを実施する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、プレゼンテーション40%、討議に対する貢献20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義中盤のプレゼンテーションワークには相応の事前準備が求められる。

履修上の注意 /Remarks

双方型の講義スタイルで進めます。積極的な発言が受講生には求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的な案件を取り上げて議論を深めたいです
皆さんの活発な発言を期待しています。

キーワード /Keywords

地域プロジェクト・マネジメント【昼】

担当者名 /Instructor 林田 暢明 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	プロジェクトマネジメントに関連する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	◎	プロジェクトの素材発掘ができ、プロジェクトの実現に必要な分析ができる。
	実務技能		
	新規事業技能	○	プロジェクト構想を企画化し、新規事業計画書を作成する力を身につける。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	プロジェクトの課題を適切に把握し、課題解決策を提案する力を身につける。
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとしてプロジェクトマネジメントに積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域プロジェクト・マネジメント

授業の概要 /Course Description

日本のみならず世界的潮流として、プロジェクトマネジメント能力を有する人材の不足が叫ばれ、その需要は高まっている。大企業を中心に人材は部門化され、スペシャリストの育成には長けているものの、全体を見渡して企画を立案・遂行していく人材は今や希少だ。また、公的部門も各部署の縦割りが解消されないまま、人口減少、財政危機、自然災害の多発等、部署単体では解決できないような課題に直面している。こうした中、官民を問わず全体を見渡しプロジェクトを遂行させていく企画立案能力、および部門・部署の垣根を超えて利害を調整しながらプロジェクトを進捗させていくファシリテーション能力が、ますます重要になってきている。本講義では、地方自治体や民間企業に、ファシリテーションを一つのツールとして用いながら、現在進行形でプロジェクトマネージャーとして関わっている現場経験をベースに、プロジェクトマネジメントとファシリテーションの双方を学び、各人が企業や地域で実践できるレベルの能力を修得することを目的とする。

DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

プロジェクト・マネジメントおよびファシリテーションに関する知識・スキルを習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

それぞれの職場やコミュニティに置いて、ボトルネックとなっている課題を発見し、その課題を解決するためのファシリテーションを現場で実行することができる。また、そのファシリテーションを実践するための企画を自ら立案し、遂行することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

講義を通して、実際にファシリテーションの企画を組成し、体験することで、修了後に職場等でファシリテーションを駆使して会議の進行等を行うことができる。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定しないが、必要に応じてプリント等を配布（パワーポイント等の資料をデータで配布）する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現実はいつも対話から生まれる』ケネス・J・ゲーガン著、『ワールド・カフェ〜カフェの会話が未来を創る〜』アニータ・ブラウン / デイヴィッド・アイザックス著、『学習する組織』ピーター・センゲ著 等

地域プロジェクト・マネジメント【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、プロジェクトファシリテーションの意義
- 2 企画力の基礎①：プロジェクトと事業アイデンティティ
- 3 企画力の基礎②：論理的思考とブレインストーミングの手法
- 4 事業ブランディングと戦略的思考
- 5 GROWモデルと8W4Hを意識した企画組成
- 6 ブレインストーミングとしてのファシリテーション
- 7 ファシリテーションスキル：実際の地方創生や企業の現場から
- 8 ファシリテーショントレーニング①：ワールドカフェ
- 9 ファシリテーショントレーニング②：Open Space Technology
- 10 プロジェクトマネジメント①：プロジェクト組織構造等
- 11 プロジェクトマネジメント②：プロジェクトマネジメントプロセス等
- 12 プロジェクトファシリテーション実践のための運営企画・準備①
- 13 プロジェクトファシリテーション実践のための運営企画・準備②
- 14 プロジェクトファシリテーション実践①
- 15 プロジェクトファシリテーション実践②

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は実施しない。レポート等の提出もなし。講義の最後に、実際にプロジェクトを企画し、ファシリテーションの現場を実践する。講座全体の受講状況を40%、プロジェクトファシリテーション実践の取り組み状況と成果を60%と按分して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外でも、職場や地域社会へのフィードバック等、実践を意識すること。

履修上の注意 /Remarks

2コマ連続の隔週講義を基本とする。基本的に、ワークショップ形式で授業を構成し、最後の2コマでは、実際のファシリテーションを体験するべくプロジェクトを企画していく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際に、民間企業や国・地方自治体において活動してきた中で、強く実感したのは、自らプロジェクトを組成しそれを回していくプロデューサーが著しく少ないこと、また、そのプロジェクトを円滑に進めていくためのファシリテーターが、現場から強く求められていることの二つだ。本講義を通して、実際にプロジェクトを組成し、ファシリテーションを活用してきた経験とノウハウを伝えていきたい。

キーワード /Keywords

プロジェクトマネジメント、ファシリテーション、企業経営、自治体経営、地方創生、地域活性化、アウトタルキー

グループ・ディスカッションI【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶことの意義や研究における倫理について理解し、各種の研究方法を学び、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等の指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を理解し、実践の場で活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

フレームワーク等を活用し、現場の問題解決策を豊かな表現力のもと提示できること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動ができること

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

- ① 研究倫理と学び方
- ② マインドセット～MBAで学ぶとは～
- ③～⑦ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読
- ⑧ グループによる講読に対する成果報告会
- ⑨～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析
【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】
- ⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス (50%)

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス (50%)

グループ・ディスカッションI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文献講読、ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

グループ・ディスカッションI【昼】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
								○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶことの意義や研究における倫理について理解し、各種の研究方法を学び、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等の指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を理解し、実践の場で活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

フレームワーク等を活用し、現場の問題解決策を豊かな表現力のもと提示できること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動ができること

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

- ① 研究倫理と学び方
- ② マインドセット～MBAで学ぶとは～
- ③～⑦ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読
- ⑧ グループによる講読に対する成果報告会
- ⑨～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析
【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】
- ⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス (50%)

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス (50%)

グループ・ディスカッションI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文献講読、ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

グループ・ディスカッションI【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

MBAオリエンテーションでは、MBAで学ぶことの意義や研究における倫理について理解し、各種の研究方法を学び、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、専任教員等の指導のもとでのディスカッションを実施した後、グループによる講読、グループによるフレームワークを活用した企業・業界等の分析を行う。そのうえで、グループ単位での報告会を実施する。したがって、学生はリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を理解し、実践の場で活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

フレームワーク等を活用し、現場の問題解決策を豊かな表現力のもと提示できること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動ができること

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下、目安となる基本的な授業内容と枠組みである。

- ① 研究倫理と学び方
- ② マインドセット～MBAで学ぶとは～
- ③～⑦ 専任教員等の指導のもとでのグループによる講読
- ⑧ グループによる講読に対する成果報告会
- ⑨～⑭ 専任教員の指導のもとでのグループによるフレームワークを活用した企業・業界分析
【フレームワーク：3C、4P、5フォース、SWOT分析】
- ⑮ グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

グループによる講読での貢献度および報告会でのパフォーマンス (50%)

グループによるフレームワークを活用した企業・業界分析の貢献度および報告会でのパフォーマンス (50%)

グループ・ディスカッションI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料は事前に配布する。また、講読の対象書籍は事前に指示する。よって、履修者は適宜、予習を心がけること。また、グループによる講読やフレームワークを活用した企業・業界分析では担当教員から課題が与えられるので、指示に従って学習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文献講読、ディスカッション、コラボレーション、プレゼンテーション、フレームワーク、読解力

グループ・ディスカッションII【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	○ 問題処理能力や、財務・会計処理能力を身につける。
	新規事業技能	○ 事業構想に関わる能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。
授業運営は、4名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る可能性もある。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を各テーマに沿って活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

経営の問題や課題を適切に抽出し、解決に向けた提案を豊かな表現力のもと提示できること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動のもと現実的な提案ができること

教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループの担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有
【目的】【問題意識】【共有】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑦ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑧～⑨ 課題討議3
【調査研究手法の学習・適用】【経過報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑩ 経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑪～⑬ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】【最終報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑭ 最終報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】

グループ・ディスカッションII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物 (40%)、報告会のパフォーマンス (30%)、討議に対する貢献度 (15%)、調査研究の姿勢 (15%) によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

グループ・ディスカッションII【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	○ 問題処理能力や、財務・会計処理能力を身につける。
	新規事業技能	○ 事業構想に関わる能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。
授業運営は、4名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る可能性もある。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を各テーマに沿って活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

経営の問題や課題を適切に抽出し、解決に向けた提案を豊かな表現力のもと提示できること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動のもと現実的な提案ができること

教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループの担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有
【目的】【問題意識】【共有】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑦ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑧～⑨ 課題討議3
【調査研究手法の学習・適用】【経過報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑩ 経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑪～⑬ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】【最終報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑭ 最終報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】

グループ・ディスカッションII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物 (40%)、報告会のパフォーマンス (30%)、討議に対する貢献度 (15%)、調査研究の姿勢 (15%) によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

グループ・ディスカッションII【昼】

担当者名 /Instructor 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	○ 問題処理能力や、財務・会計処理能力を身につける。
	新規事業技能	○ 事業構想に関わる能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。
 授業運営は、4名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る可能性もある。

DPに基づく到達目標

- < 高度な専門的知識・技能 >
- マネジメント等に係る高度な専門的知識を各テーマに沿って活用できること
- < 高い問題解決能力と表現力 >
- 経営の問題や課題を適切に抽出し、解決に向けた提案を豊かな表現力のもと提示できること
- < 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >
- 研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動のもと現実的な提案ができること

教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループの担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有
【目的】【問題意識】【共有】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑦ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑧～⑨ 課題討議3
【調査研究手法の学習・適用】【経過報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑩ 経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑪～⑬ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】【最終報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑭ 最終報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】

グループ・ディスカッションII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物 (40%)、報告会のパフォーマンス (30%)、討議に対する貢献度 (15%)、調査研究の姿勢 (15%) によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

グループ・ディスカッションII【昼】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	○ 問題処理能力や、財務・会計処理能力を身につける。
	新規事業技能	○ 事業構想に関わる能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。
 授業運営は、4名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る可能性もある。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を各テーマに沿って活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

経営の問題や課題を適切に抽出し、解決に向けた提案を豊かな表現力のもと提示できること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動のもと現実的な提案ができること

教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループの担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有
【目的】【問題意識】【共有】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑦ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑧～⑨ 課題討議3
【調査研究手法の学習・適用】【経過報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑩ 経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑪～⑬ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】【最終報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑭ 最終報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】

グループ・ディスカッションII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物 (40%)、報告会のパフォーマンス (30%)、討議に対する貢献度 (15%)、調査研究の姿勢 (15%) によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

グループ・ディスカッションII【昼】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎	的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	○	問題処理能力や、財務・会計処理能力を身につける。
	新規事業技能	○	事業構想に関わる能力を身につける。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。
授業運営は、4名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る可能性もある。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を各テーマに沿って活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

経営の問題や課題を適切に抽出し、解決に向けた提案を豊かな表現力のもと提示できること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動のもと現実的な提案ができること

教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループの担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有
【目的】【問題意識】【共有】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑦ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑧～⑨ 課題討議3
【調査研究手法の学習・適用】【経過報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑩ 経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑪～⑬ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】【最終報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑭ 最終報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】

グループ・ディスカッションII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物 (40%)、報告会のパフォーマンス (30%)、討議に対する貢献度 (15%)、調査研究の姿勢 (15%) によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

グループ・ディスカッションII【昼】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	○ 問題処理能力や、財務・会計処理能力を身につける。
	新規事業技能	○ 事業構想に関わる能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。
 授業運営は、4名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る可能性もある。

DPに基づく到達目標

- < 高度な専門的知識・技能 >
- マネジメント等に係る高度な専門的知識を各テーマに沿って活用できること
- < 高い問題解決能力と表現力 >
- 経営の問題や課題を適切に抽出し、解決に向けた提案を豊かな表現力のもと提示できること
- < 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >
- 研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動のもと現実的な提案ができること

教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループの担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有
【目的】【問題意識】【共有】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑦ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑧～⑨ 課題討議3
【調査研究手法の学習・適用】【経過報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑩ 経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑪～⑬ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】【最終報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑭ 最終報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】

グループ・ディスカッションII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物 (40%)、報告会のパフォーマンス (30%)、討議に対する貢献度 (15%)、調査研究の姿勢 (15%) によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

グループ・ディスカッションII【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	○ 問題処理能力や、財務・会計処理能力を身につける。
	新規事業技能	○ 事業構想に関わる能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。
 授業運営は、4名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る可能性もある。

DPに基づく到達目標

- < 高度な専門的知識・技能 >
- マネジメント等に係る高度な専門的知識を各テーマに沿って活用できること
- < 高い問題解決能力と表現力 >
- 経営の問題や課題を適切に抽出し、解決に向けた提案を豊かな表現力のもと提示できること
- < 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >
- 研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動のもと現実的な提案ができること

教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループの担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有
【目的】【問題意識】【共有】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑦ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑧～⑨ 課題討議3
【調査研究手法の学習・適用】【経過報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑩ 経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑪～⑬ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】【最終報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑭ 最終報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】

グループ・ディスカッションII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物 (40%)、報告会のパフォーマンス (30%)、討議に対する貢献度 (15%)、調査研究の姿勢 (15%) によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

グループ・ディスカッションII【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	○ 問題処理能力や、財務・会計処理能力を身につける。
	新規事業技能	○ 事業構想に関わる能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。
 授業運営は、4名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る可能性もある。

DPに基づく到達目標

- < 高度な専門的知識・技能 >
- マネジメント等に係る高度な専門的知識を各テーマに沿って活用できること
- < 高い問題解決能力と表現力 >
- 経営の問題や課題を適切に抽出し、解決に向けた提案を豊かな表現力のもと提示できること
- < 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >
- 研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動のもと現実的な提案ができること

教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループの担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有
【目的】【問題意識】【共有】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑦ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑧～⑨ 課題討議3
【調査研究手法の学習・適用】【経過報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑩ 経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑪～⑬ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】【最終報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑭ 最終報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】

グループ・ディスカッションII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物 (40%)、報告会のパフォーマンス (30%)、討議に対する貢献度 (15%)、調査研究の姿勢 (15%) によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

グループ・ディスカッションII【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎	的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	○	問題処理能力や、財務・会計処理能力を身につける。
	新規事業技能	○	事業構想に関わる能力を身につける。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。
授業運営は、4名程度からなる小グループ（研究テーマに応じて小グループ）ごとに専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る可能性もある。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を各テーマに沿って活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

経営の問題や課題を適切に抽出し、解決に向けた提案を豊かな表現力のもと提示できること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究倫理を踏まえた実践的かつ自律的行動のもと現実的な提案ができること

教科書 /Textbooks

各グループの担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループの担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① グループ・プロジェクトにおける問題意識の共有
【目的】【問題意識】【共有】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑦ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑧～⑨ 課題討議3
【調査研究手法の学習・適用】【経過報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑩ 経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】
- ⑪～⑬ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】【最終報告会用プレゼンテーション資料の作成】
- ⑭ 最終報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】

グループ・ディスカッションII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物 (40%)、報告会のパフォーマンス (30%)、討議に対する貢献度 (15%)、調査研究の姿勢 (15%) によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献資料を事前に配布、指示する。履修者は適宜、個別の担当教員の指示に従い、事前・事後学習を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

経営戦略【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	経営戦略の理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	経営戦略に関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	経営戦略の知識を用いて、企業経営に関する高い見識と変革する力を持ち続けることができる。
	地域リーダー態度	○	経営戦略の知識を用いて、地域に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

経営戦略

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略の基本的な考え方と思考法について、できるだけ自分で使えるようになることを目指した講義と議論を行います。それらの考え方や思考法を用いてケースを考察することで実際の戦略分析・策定・実行に活用されているのかを学びます。講義では、講義（レクチャー）、ケースディスカッション、個人レポートの3点を組み合わせて進められます。

(到達目標)

【高度な専門知識・技能】

経営戦略に関する基本的な考え方について理解する

【高い問題解決能力と表現力】

自社を取り巻く環境について分析し、課題を抽出した上で、それに対する打ち手を構想できる

【高い倫理観に基づいた自律的行動】

社会の中で企業の求められる役割を理解し、戦略として構想し実行するまでの一連のプロセスを策定できる

教科書 /Textbooks

特に、指定せず、適宜資料を配布する。

(なお、ケースを用いる場合、そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎『1からの戦略論 第2版』碩学舎

奥村昭博『経営戦略』日経文庫

石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略：論理性・創造性と社会性の追求』有斐閣

経営戦略【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1オリエンテーション【戦略とは何か？】
- 2業界の構造【Five-Forces分析】【価値相関図】
- 3業界の構造（ケース討議）
- 4経営資源分析【VRIO分析】【バリューチェーン分析】
- 5経営資源分析（ケース討議）
- 6ビジネスモデル【顧客価値】【競争優位】
- 7ビジネスモデル（ケース討議）
- 8多角化・垂直統合【多角化の種類】【PPM】【シナジー】【取引コスト】
- 9多角化・垂直統合（ケース討議）
- 10イノベーション戦略【両利きの経営】【ダイナミックケイパビリティ】【イノベーターのジレンマ】
- 11イノベーション戦略（ケース討議）
- 12グローバル戦略【グローバル統合】【ローカル適応】
- 13グローバル戦略（ケース討議）
- 14戦略の社会的側面【CSR】【CSV】
- 15全体のまとめ

なお、授業の内容は、進捗状況や受講生の興味等に応じて、変更する可能性がある

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度30%、小レポート30%、期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にリーディングを読み込んだ上で、戦略分析に関する小レポートなどを提出してもらう。
また、事後的にもリーディングに関する分析レポートを課すこともある。

履修上の注意 /Remarks

経営に関する知識があることが好ましいが、前提とはしない。
予習や復習には、かなりの時間が必要となる。
詳細は初回の講義にアナウンスする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	マーケティングに関する基礎的理論を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	マーケティング上の課題を適切に把握し分析する力を習得する。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	企業経営に関して、マーケティングの観点から変革する力を身につける。
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとしてマーケティングに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

マーケティング

授業の概要 /Course Description

本講義は、コトラーやドラッカー等の提唱するマーケティングの基本理論の理解を目指します。マーケティングは販売活動に留まるものではなく、需要者の欲求を満たす価値を供給者が提供し、需要者はそれに対して対価を払うことを意味するものです。

DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

マーケティングに関連する概念や用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

問題を発見し、課題として設定するとともに、その解決に向けたマーケティングモデルを構想し、設計できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

構想し、設計したマーケティングモデルを社会的正義や公正の概念と現実的なプロセスによって実践できる。

教科書 /Textbooks

講義ごとに資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ フィリップ・コトラー, ケビン・レーンケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版』 丸善出版 2014年 ¥9350
- ・ 石井淳蔵, 栗木契, 嶋口充輝, 余田拓郎 (著) 『ゼミナール マーケティング入門 第2版』 日本経済新聞出版社 2013年 ¥3520
- ・ 石井淳蔵, 廣田章光 (編著) 『1からのマーケティング』 中央経済社 2019年 ¥2640

他にも、講義内で適宜紹介

マーケティング【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① マーケティングとは1：ガイダンスと授業の概観
- ② 市場分析1：市場とは何か，BtoBとBtoC，5F，3C，PEST分析，PPM，SWOT分析，マーケティング戦略，ランチェスター戦略，クーブマン目標値
- ③ 市場分析2：グループワーク1
- ④ マーケティングの基本要素1：STP，4P，マーケティングミックス，顧客にとっての価値
- ⑤ マーケティングの基本要素2：グループワーク2
- ⑥ 製品戦略1：製品とは，製品多様化戦略，プロダクトライフサイクル，新商品開発プロセス，グローバル視点
- ⑦ 製品戦略2：ブランドの基本要素と機能，ブランド・エクイティ
- ⑧ 価格戦略1：価格戦略，価格設定（コスト志向型，需要志向型，競争志向型）
- ⑨ 価格戦略2：新製品の価格戦略，価格センシティブティ，価格弾力性
- ⑩ 創造的思考とイノベーション1：破壊的イノベーション，イノベーションのジレンマ，創造性とは，パラダイムとブレイクスルー
- ⑪ 創造的思考とイノベーション2：グループワーク3
- ⑫ 流通戦略1：流通チャンネル政策，VMS，サプライチェーン，チャンネルシフト，オムニチャンネル
- ⑬ 流通戦略2：立地要因，商圈要因，出店戦略
- ⑭ 広告戦略：AIDMAとDUAL AISAS，DAGMAR理論，ハワード・シエス・モデル，Web広告，広告倫理
- ⑮ マーケティングとは2：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内小レポート（8回）..70%
グループワーク成果..30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には，必ず授業の復習をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドラッカーの言うように「マーケティングが目指すものとして，顧客を理解し，顧客に製品とサービスを合わせ，おのずから売れるようにする」ためにも，必ずしも効用を最大化するような合理的な判断を行わない人間の心理にも注目していきたいと思います。

キーワード /Keywords

マーケティング

アカウンティング【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 会計業務に関する実践的な知識を修得し課題に取り組みすることができる。
	実践知識	○ 理論的な知識を実践可能な知識に落とし込むことができる。
技能	分析解決技能	○ 課題に対する観察能力と定量的な分析能力を習得している。
	実務技能	○ 実務的な簿記会計の、初歩的な技能を身につけることができる。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 経営倫理なかつく会計倫理の観点を得、粉飾のリスクを知る。
	企業変革態度	○ 会計処理とシステムの効率化、有効化促進のための視点を獲得。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

アカウンティング

授業の概要 /Course Description

アカウンティングは、ビジネス世界における、外部ステークホルダーに対する経営情報伝達のための共通言語である。本講座にあってはビジネススクールの履修者に期待される水準の「財務会計」（すなわち、利害関係者に向けた外部報告会計）の基礎知識を学ぶ機会が与えられる。教室にては先ず大学学部における財務諸表論と重なりあう内容を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のIRディスクロージャー戦略に至る視点に絡む考察を加えてゆく。講義コンテンツにあっては、ある程度（英文）カタカナの会計用語のリテラシーが得られるよう、デザインされている（但し、受講される上では英語力は問わない）。本講座の到達目標は、受講後、修了者が、企業の財務報告の意義と関わる制度に関心を持ち、たとえば日経新聞の証券市場欄等の記事情報にヨリ関心を持ち、財務諸表に示された主要な数値の意味を解釈、分析できるようになることである。

また、学期中に1回、学外からもゲストを招聘し、財務会計分野の視角を拡げる機会を得ることがある（時期未定）。

（到達目標）

【専門的知識・技能】初歩的な簿記技能の習得と広範な財務会計理論の習熟

【問題解決能力・表現力】財務諸表に関する解釈と分析の視点の確立

【倫理観・自律的行動力】日本経済新聞金融欄記事等への関心の喚起と財務開示不正に関する識別能力の獲得

教科書 /Textbooks

任 章 著『アカウンティングと財務諸表分析』（その年度の最新版）

（初回の教室にて無償配布。アドバンスト科目たる財務諸表分析でも本テキストを継続使用するので大事に使ってください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書の購入は義務ではなく、下記はあくまで例示の程度です。会計分野の程よい入門書はたくさんあります。

・ ロバート・アンソニー / レスリー・パウルマン 著 西山茂監訳 (2007年) 『アンソニー会計学入門』 東洋経済新報社 (いわゆる英文会計に馴染むために推薦する基本書。ただし購入は任意であり、授業にては全く使用しない。)

・ 簿記の学習をされたことがない人は、日商簿記検定3級程度の参考書(たくさん出ている本のうちから、よろしければご自分で適宜選んで)をご自身で学習してみてください。簿記の知識は本講座受講の前提ではありませんが、関わる知識があれば、この分野で用いられる考え方につき「反射神経」のようなものが磨かれるでしょう。

・ ○任 章著 (2017) 『監査と哲学 - 会計プロフェッションの懐疑心 - 』 同文館出版 (会計学で用いる基礎概念と用語の定義、会計監査諸基準の内容、さらには会計監査の歴史について知りたい方には「参考」になると思います)。

アカウンティング【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く（但し、プレゼンテーションの時間をとる必要もあり、講義順や講義内容は大きく変わる）。

①オリエンテーション：本講座の領域と目的、課題について。

【オリエンテーション】

②企業とアカウンティング：会計の役割と機能について（なぜ今、あえて「会計」を考えなければならないのか？）。

【会計の役割と機能】

③会計原則（GAAP）とは何か：特に米国基準（US-GAAP）と国際基準（IFRS）について。

【GAAP】

④バランスシートの機能について。

【B/S】

⑤P/Lの機能について。

【P/L】

⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。

【キャッシュフロー】

⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。

【アカウンティング・サイクル】

⑧決算修正：アクルーアル処理とその会計倫理上の限界について。

【アクルーアル】 【アグレッシブ・アカウンティング】

⑨ディスクロージャー：その制度と脚注情報について。

【ディスクロージャー】

⑩情報信頼性の担保方法：監査報告書について。

【監査】

⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。

【財務諸表分析】

⑫年次報告と投資家向広報（IR）について。

【アニュアルレポート】

⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。

【意思決定】

⑭MBA アカウンティングのWrap-Up.

【MBA・まとめ】

⑮アドバンスト財務会計への展望

【財務会計】

...以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートそのものの質（15%程度）、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度（15%程度）、ミニテストの成績（2回実施で70%程度）、を適宜ウェイト付けし、総合的に（100%にして）判断します。なお、コロナ禍の継続の懸念により全面遠隔講義になった際には、予め、課題レポートの質による評価割合が80%程度に増えるものとお考えください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、（次回の講義でカバーする範囲をその前の回に示しますので）予めバラバラとテキストをめぐって見て、イメージを掴む程度で結構です。事後学習としては、授業中、理解できなかった箇所を教員に（教室内で、あるいはメール等により）質問し、教員からのアドバイスや返答を得て、その後理解を定着させること。さらに、二度実施予定のミニテストに備えて、関わる用語と概念、計算方法等につき、習熟を重ねておくことが望まれます。その他、授業外学習としては、やはり、日本経済新聞の金融関係のコラム記事等に日頃より関心を持ち、親しむことが効果的と思われます。

履修上の注意 /Remarks

学部生が学ぶ簿記論の授業等とはアプローチが全く異なります。特に簿記会計の知識経験がなくとも、授業内容それ自体は十分に理解できると思います。英語の専門用語を多く引用しますが、カタカナで理解してもらえますから英語力も不問です。その他、必要なことはその都度、教室にて事前に連絡します。

配布プリント等の教材はきちんとファイルされ、各回、過去のものも忘れず教室に持参してきてください。それと、原則、隔週での一日二コマ授業です。理解促進の為に遅刻してもできるだけ欠席回は少なくするのがよいでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は一方通行の講義をするのではなく、インタラクティブにコミュニケーションをとりたいと考えています。そのためにも、履修者がテーマを選んで自発的にプレゼンテーションをする機会を設けたいと考えています。教室にてぜひ積極性を発揮してください。

キーワード /Keywords

上記の中でも特に、簿記、GAAP、IFRS、B/S、P/L、キャッシュフロー計算書、財務諸表監査、他。

ファイナンス【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	ファイナンスに関する専門知識を修得している。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	ファイナンスに関する定性的、定量的な分析能力を習得している。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	企業経営に関して、ファイナンスの観点から、変革する力を持っている。
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとしてファイナンスに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ファイナンス

授業の概要 /Course Description

企業経営や地域リーダーに必要なファイナンスの知識と分析能力を修得する。具体的には、①～⑤では、ファイナンスとは何かを学び、組織の目標とガバナンスや、ファイナンシャル・プランニングについて学ぶ。⑥～⑩では、現在価値分析を理解し、ファイナンスの意思決定について学ぶ。⑪～⑬では、企業の資金調達と資本構成について学ぶ。

DPに基づく到達目標

《高度な専門的知識・技能》

ファイナンスの知識を身につけ、ファイナンシャル・プランニングができるようになる。

《高い問題解決能力と表現力》

企業の資金調達と資本構成についての理論を理解し、分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

ファイナンス理論を理解し、企業や家計についてのファイナンスの意思決定ができるようになる。

教科書 /Textbooks

ブリーリー&マイヤーズ&アレン著、藤井眞理子・国枝繁樹（監訳）（2014）『コーポレート・ファイナンス（第10版）上』、『同 下』日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ボデイ&マートン&クリートン著、大前恵一朗訳、（2011）『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン
- 砂川&川北&杉浦著（2008）『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社
- 砂川&川北&杉浦&佐藤著（2013）『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社
- 中島真志（2015）『入門 企業金融論』東洋経済新報社
- 三井住友信託銀行マーケット事業（2020）『第7版 投資家のための金融マーケット予測ハンドブック』NHK出版

ファイナンス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①企業の目標とガバナンス(1) イントロダクション
【ファイナンスの定義】【投資判断】【資金調達に関する決定】【株式会社】
- ②企業の目標とガバナンス(2) 財務担当者の役割と資本の機会費用
【金融システム】【資金循環】【金融仲介の機能】【投資のトレードオフ】
- ③企業の目標とガバナンス(3) 株式会社の目標
【価値の最大化】【経営者】【株主】【利害関係者】【エージェンシー問題】【コーポレート・ガバナンス】
- ④ファイナンシャル・プランニング(1)
【ファイナンシャル・プランニングのプロセス】【ファイナンシャル・プランニング・モデルの設計】
- ⑤ファイナンシャル・プランニング(2)
【成長と外部資金調達の必要性】【運転資本管理】【流動性と現金計画】
- ⑥現在価値の計算方法(1)
【将来価値】【現在価値】【収益率】【資本の機会費用】【NPV】【IRR】
- ⑦現在価値の計算方法(2)
【永久債】【成長型永久債】
- ⑧純現在価値とその他の投資基準
【NPVルール】【IRRルール】【投資回収ルール】【相互に排他的なプロジェクト】
- ⑨リスクと資本コスト
【WACC(ワック)】【CAPM(キャップエム)】【株主資本コスト】【ベータ】
- ⑩プロジェクト分析(1)
【感応度分析】【シナリオ分析】【損益分岐点分析】【営業レバレッジ】
- ⑪プロジェクト分析(2) ケース
- ⑫企業の資金調達の概要
【内部資金】【株式】【負債】【金融市場】【金融機関】
- ⑬企業はどれだけ借り入れるべきか
【支払利子の節税効果】【財務上の困難】【トレードオフ理論】【ベッキング・オーダー理論】【行動ファイナンス】
- ⑭企業の資金調達と資本構成：ケース
- ⑮まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント
 課題の提出 70パーセント
 ※学生が授業に出席することは前提のため、欠席はマイナス評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本経済新聞を購読して、ファイナンスの知識を活かし自分の考えを持って批判的に読んでください。
 課題をすらすら解けるようになるまで復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

組織とイノベーション【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	組織マネジメントの実践に必要な基礎的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	組織での人間行動を分析するための基礎的リテラシーを習得する。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	イノベーターとしてのリーダーシップのあり方を理解する。
	地域リーダー態度	○	リーダーシップの理論的な枠組みを修得する。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

組織とイノベーション

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営組織にまつわる理論・枠組みを学ぶ。コースの前半ではマイクロ組織論（組織行動論）を中心とした理論基盤の学習を行う。コース後半では、マクロ組織論（組織デザイン論）と企業の変革にまつわる学習を行う。各講義回では、ケースやミニ・ケースをもとに事例分析やケース・ディスカッションを行い、さらには受講生の発表をもとに、基礎的な諸理論の理解と実践力の向上を図る。

DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

経営組織に関する概念や理論、用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

企業・組織における経営組織の問題を抽出し、その解決へアプローチできる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

よりよい経営組織の実現にむけた改善・改革を推進することができる。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布するが、ロビンズ『組織行動のマネジメント(新版)』を教科書に準じた参考書として扱う。なお、ケース教材を用いる場合、そのケース代金（1冊千数百円）が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ロビンズ著,高木晴夫監訳『組織行動のマネジメント(新版)』ダイヤモンド社,2009年.
- 金井壽宏『経営組織』日経文庫,1999年.
- 金井壽宏『リーダーシップ入門』日経文庫,2005年.
- 沼上幹『組織デザイン』日経文庫,2004.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【経営学、組織行動論】
- 2回 個人と集団（1）【経営倫理】【組織内の公正性】
- 3回 個人と集団（2）【合理的な意思決定】
- 4回 個人の特性（1）【性格特性、Big5】
- 5回 個人の特性（2）【適性検査】
- 6回 モチベーション（1）【モチベーション、欲求階層説】
- 7回 モチベーション（2）【期待理論、目標設定理論】
- 8回 リーダーシップ（1）【リーダーシップ、基本二次元】
- 9回 リーダーシップ（2）【変革型リーダー】
- 10回 リーダーシップ（3）【製品開発リーダー】
- 11回 マクロ組織（1）【機能別組織】【事業部制】
- 12回 マクロ組織（2）【ネットワーク型組織】【チーム】
- 13回 マクロ組織（3）【企業文化】【企業風土】
- 14回 組織変革（1）【組織変革】
- 15回 組織変革（2）【8段階ステップ】

組織とイノベーション【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度40%、期末レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前学習教材と問いを指定し、事前学習向けに参考図書の章を指定するので、それらに対する事前学習をしっかりと行うこと。また、講義で理解が進まなかった点について復習を行うことに加えて、発展学習として指定した書籍・論文などを閲覧し、理解をさらに深めることが期待される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント入門【夜】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	企業や組織のマネジメントの理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	マネジメントに関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	市民としての社会的責任感や倫理観を持ち続けることができる。
	企業変革態度	○	マネジメントの知識を用いて企業に関する高い見識と変革する力を持ち続けることができる。
	地域リーダー態度	○	マネジメントに関する知識を用いて地域に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

マネジメント入門

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門【夜】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	経済を理解するために必要な経済学の基礎知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	習得した知識を利用して、経済の諸問題を発見し解決する能力を身に付ける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	経済学の学習を通じて、経済人としての社会的倫理観を確認する。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

経済学入門

授業の概要 /Course Description

実際のビジネスを検討するためには経済学の他、心理学や社会学などの視点も有用であり、その統合学問として経営学がある。一方、ビジネス・エコノミクスは、ビジネスを検討するために専ら経済学のロジックを用いる。本講義の目的は、経済学のロジックに特化した思考方法を身につけ、ビジネスに対する新たな視点を獲得することである。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。授業のテーマ別に参考書を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重、『ビジネスエコノミクス』、日本経済新聞社、2004年。
 ジョン・マクミラン、『市場を創る』、NTT出版、2007年。
 アビナッシュ・デイキシット/パリー・ネイルバフ、『戦略的思考とは何か』、阪急コミュニケーションズ、2006年。
 ポール＝ミルグロム・ジョン＝ロバーツ、『組織の経済学』、NTT出版、1997。
 中室牧子・津川友介、『原因と結果の経済学』、ダイヤモンド社、2017年。
 伊藤公一朗、『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、光文社新書、2017年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業ではテーマとなるロジックや手法とその応用事例を解説した後に、演習やグループディスカッションを行う。

第1回：イントロダクション【ビジネスエコノミクス】【経済学】

第2回：経済学の思考方法①【費用】【便益】

第3回：経済学の思考方法②【合理的意思決定】

第4回：ゲーム理論のロジック①【均衡】【囚人のジレンマ】

第5回：ゲーム理論のロジック②【バックワードインダクション】

第6回：価格戦略のロジック①【支払い可能金額】【需要の法則】

第7回：価格戦略のロジック②【価格差別戦略】

第8回：市場と組織のロジック①【割当】【情報】

第9回：市場と組織のロジック②【市場メカニズム】

第10回：因果関係について①【相関関係】

第11回：因果関係について②【因果推論】

第12回：因果関係の検証方法①【ランダム化】

第13回：因果関係の検証方法②【反実仮想】

第14回：その他の検証方法①【自然実験】【差の差の分析】

第15回：その他の検証方法②【回帰不連続デザイン】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の演習やグループディスカッションへの取り組み (60%) + 最終プレゼンテーション (40%)

経済学入門 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のテーマ別に適宜、演習問題や参考資料を提示します。

履修上の注意 /Remarks

Moodleコースを閲覧しておいて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知識マネジメント【夜】

担当者名 永田 晃也 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	知識変換モデルを修得する。
	実践知識	○	「知識共有と創造」に関する場の設計を理解する。
技能	分析解決技能	○	場の動態分析と活性化スキルを習得する。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	自社における知識創造経営の実践を実現する力を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

知識マネジメント

授業の概要 /Course Description

資本ストックや労働などの生産投入要素の拡大による成長が限界に達した現在、我々は、知識が最も重要な資源となる「知識社会」の到来に直面している。これに伴い、近年の組織論の研究領域では、知識を情報処理システムとして見る伝統的なパラダイムを超えて、知識を創造する主体として組織を捉える新たな理論が提唱された。また、個人の知識を組織的に共有・活用しながら知識を創造する手法の体系化を指向する「ナレッジ・マネジメント」が、急速に普及した。

本講義は、これらの理論と経営手法を包括的に修得し、経営資源としての知識の創造、活用および蓄積に関する戦略的な指針を得ることを目的とする。

DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

SECIモデル、知識資産などの理論・基礎概念を説明することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

SECIモデル等をフレームワークとして組織的知識創造に係る課題を分析し、解決策を導出することができる。

《高い倫理観に基づいた自立的行動力》

課題解決に向けナレッジ・リーダーとして行動し、組織メンバー、ビジネスパートナー、顧客との関係を構築できる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 野中郁次郎・竹内弘高(梅本勝博訳)『知識創造企業』東洋経済新報社、1996年
- ・ 野中郁次郎・泉田裕彦・永田晃也編著『知識国家論序説』東洋経済新報社、2003年
- ・ 杉山公造・永田晃也・下嶋篤・梅本勝博・橋本敬編著『ナレッジサイエンス(改訂増補版)』近代科学社、2008年

知識マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①序論：経営資源としての知識
- ②組織的知識創造の理論(1)「情報処理」から「知識創造」へ
- ③組織的知識創造の理論(2)リーダーシップと知識創造のイネーブラー
- ④知識創造プロセスの検証(1)技術的イノベーションにおける知識創造
- ⑤知識創造プロセスの検証(2)パブリックセクターにおける知識創造
- ⑥ナレッジ・マネジメントの方法(1)ナレッジ・マネジメントの導入
- ⑦ナレッジ・マネジメントの方法(2)知識移転と知識共有
- ⑧ナレッジ・マネジメントの方法(3)発想支援と情報技術の利用
- ⑨ナレッジ・マネジメントの方法(4)知識資産の概念と計測
- ⑩ケース討論(1)
- ⑪ケース討論(2)
- ⑫ケース討論(3)
- ⑬総合討論
- ⑭課題レポートのプレゼンテーションとディスカッション
- ⑮課題レポートのプレゼンテーションとディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートとプレゼンテーション40%、ケース分析シート30%、ディスカッションへの貢献度30%
 なお、4回以上の欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付資料は熟読して講義に臨むこと。ケース討論に用いる資料は、分析シートとともに事前配付するので、資料の内容をよく理解した上で、分析シートに所要事項を記入して授業当日までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修条件は特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

見えざる資産である知識の所在を洞察するための視点と、新たな知の創造を担うリーダーシップを身に付けていただくことが本科目の狙いです。皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

知識創造、ナレッジマネジメント、SECIモデル、ソーシャル・キャピタル

国際ビジネス・スキル【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ ビジネスに必要な英語のスキルを習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 英語でビジネスプレゼンテーションができる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協働態度	○ 国際的な環境において相互理解し、コミュニケーションが行える力を修得する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

国際ビジネス・スキル

授業の概要 /Course Description

International Business Skill offers students the opportunity to develop the skills necessary to make successful business presentations in an international environment. While the emphasis will be on technique, a strong focus on enhancing English-language skills will be maintained throughout. It is hoped that this course will enable students to make professional, persuasive, and entertaining business presentations which feature the use of accurate and appropriate English.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

国際ビジネスコミュニケーション・ビジネスプレゼンテーションに関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

国際ビジネスコミュニケーション・ビジネスプレゼンテーションに関する資料を適切に分析して問題を解決できる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

国際ビジネスコミュニケーション・ビジネスプレゼンテーションに関する課題を自律的かつ主体的に解決できる。

教科書 /Textbooks

Marion Grussendorf, Express Series: English for Presentations: (Oxford: Oxford University Press 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Rabb, Margaret Y., The Presentation Design Book : Tips, Techniques and Advice for Creating Shows and More
(Chapel Hill, NC : Ventana Press, 1993) 図書館 書庫 4 F (600-700), 674.6/R11

Zelazny, Gene, Say It With Charts : The Executive's Guide to Visual Communication
(New York : McGraw-Hill, 2001) 図書館 書庫 4 F (300), 336/Z2

国際ビジネス・スキル【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Opening a presentation / Structuring a presentation
- 3回 Organizational details / Getting the audience's attention
- 4回 Signposting / Talking about difficult issues
- 5回 Referring to other points / Adding ideas
- 6回 Introducing visuals / Saying numbers / The rule of six
- 7回 Emphasizing important points / Making contrasts and describing results
- 8回 Talking about visuals
- 9回 Talking about trends
- 10回 Student presentations 1
- 11回 Summarizing the main points / Making recommendations
- 12回 Phrases for effective conclusions / Using your voice effectively
- 13回 Dealing with questions and interruptions
- 14回 Student presentations 2
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of homework assignments and presentations - 100%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

So as to encourage language acquisition and involvement in discussion, reading through class content prior to each class is recommended. Rereading class content after each class is also advised.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロジスティクス【夜】

担当者名 幕 亮二 / Ryoji Maku / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ バリューチェーン、サプライチェーンに関する基本的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 効率的かつ創造的なバリューチェーンを組み立てる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 自社の課題をバリューチェーンの視点から改善する能力を修得する。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	○ 国際的な視点からバリューチェーンを組み立てる力を修得する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ロジスティクス

授業の概要 /Course Description

財・サービスを求める需要者に供給（サプライ）するには、生産資源（原材料・労働力）を無駄なく効率的に活用するとともに、適正な需要予測に基づく生産管理により、在庫・欠品や不稼働時間等、非生産的な要素を最小化することが重要です。サプライチェーン（供給活動の連鎖）を適切にマネジメント（管理）することで、企業の生産性向上に役立てようとする、サプライチェーン・マネジメントという概念や取り組みは、我が国ではバブル崩壊以降、あらゆる業種でキャッシュフロー経営が重視されるようになった頃、一時期ブームとなっていました。昨今国際物流網の形成やIoT等情報化の進展、災害や労働争議等による円滑な物流ネットワークにおける迂回や遅延等、考慮せねばならない環境や条件が多岐に渡るとともにその変化の速度が急となっており、改めてグローバルなサプライチェーン・マネジメントの重要性が再認識されています。

本講は、サプライチェーン・マネジメントの基礎的な理論から、今日における深化・高度化の過程を理解するとともに、実際の様々な産業分野での商流・物流における活用から、社会全体のサプライチェーン・マネジメントを目指すスマート物流まで、ディスカッションを通じ学びます。

DPに基づく到達目標

《高度な専門的知識・技能》

サプライチェーン・マネジメントの概念や用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

サプライチェーンの課題を理解し、サプライチェーン・マネジメントの今後の方向性について、自ら問題意識持ちディスカッションできる表現力を身に付ける。

《高い倫理観に基づいた自立的行動力》

環境経営等社会全体に係るサプライチェーン・マネジメントの取り組みを理解し、今後の自身の活動に活かすことができる。

教科書 /Textbooks

授業毎にレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

次回講義のディスカッション・テーマに関する参考書やURLを、授業各回終了後にリストで配布します。

SCMの基本的考え方や論点に関する参考書としては、以下を参照ください。

「サプライチェーン・マネジメント概論」 苦瀬博仁編著、白桃書房

「ザ・ゴール」 エリヤフ・ゴールドラット著、ダイヤモンド社

ロジスティクス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ガイダンス
本講義の全体構成と評価方法について説明します。
【本講義の全体構成と進め方】【評価方法】
- ②SCMの定義と内容
サプライチェーンとSCMの定義・目的について概観します。
【スループット】【バリューチェーン】
- ③産時期と在庫ポイント
産時期及び在庫ポイントの種類と内容と、その最適化法について学びます。
【制約理論】【バッファー】【DBR】
- ④物流ネットワーク
サプライチェーンにおける物流業の役割、SCMにおける物流ネットワーク・物流施設の地計画について学びます。
【グローバルロジスティクス】【物流センター】【フォワーダー】
- ⑤流通チャネル
取引の流れ（商流）におけるリスク分担と、自社優位を目標とするチャネルキャプテンが目指すべき、全体最適化の方法について学びます。
【チャネルキャプテン】【閉鎖型・開放型】【オムニチャネル】
- ⑥調達・産・販売の計画
SCMの基盤である、需要予測と在庫計画・管理について、予測におけるバイアスと留意点を中心に学びます。
【需要予測】【バイアス】【ヒューリスティクス】
- ⑦調達・産・販売の管理
調達・生産・販売管理の目的と方法について学びます。
【ナレッジマネジメント】【先染め・後染め】【SPA】
- ⑧在庫・輸配送の計画
SCMにおける、在庫及び輸配送管理の意義と内容について学びます。
【ジャスト・イン・タイム】【かんばん方式】
- ⑨在庫・輸配送の計画
SCMにおける、在庫及び輸配送管理の方法と、その事業化について学びます。
【フォワーダー】【3PL・4PL】
- ⑩SCMと企業経営
SCMを重視した、企業経営の取り組みについて学びます。
【スループット会計】【TQC】
- ⑪SCMと情報システム
SCMを支援する情報システムについて、現在までの歴史と今後の方向性について学びます。
【ERP】【IoT】【AI】
- ⑫グローバルサプライチェーンの構築と課題
グローバル化がもたらす、サプライチェーンの効率化と脆弱性について学びます。
【標準化】【シームレス化】
- ⑬リスクマネジメント
不測の事態発生に備える冗長性（リダンダンシー）と、SCMにおけるリスク対策について学びます。
【リスク・危機管理】【BCP】【復旧・防災SCM】
- ⑭SCMと環境問題
製品開発から廃品処理までの、総合的なSCMの重要性について学びます。
【3R】【トレーサビリティ】【グリーン・サプライ・チェーン】
- ⑮スマート物流
社会全体の物流や人材活用の効率化を目指す、スマート物流の取り組みについて学びます。
【ドライバー不足】【ロジスティクス4.0】【共同配送】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のディスカッションへの貢献度（50％）と、各ディスカッションに関するレポート（50％）をもとに、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業各回終了後、次回講義のディスカッション・テーマに関して、参考書やURL等のリストを配布しますので、参照・予習して講義に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

各回、前半を座学講義、後半は出席受講者全員によるディスカッションを、講師がファシリテーターになり行います。受講者の積極的な参加を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディスカッションで大切な技術は、「聞く・聞き出す」力です。議論を通じて、相手だけでなく自分の意見や考え方を自問していく過程を楽しみましょう。

キーワード /Keywords

サプライチェーン・マネジメント 全体最適 ロジスティクス

問題解決スキル【夜】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 問題解決に必要とされる基本的な思考方法および分析ツールを習得する。
技能	分析解決技能	○ 問題解決に必要とされる分析ツールを事例を通じて応用できる。
	実務技能	○ 問題解決のためのツールを使いこなす力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

問題解決スキル

授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信するに際しても、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。何故なら、グローバル化の進展がとどまることなく、社会・文化的なバックグラウンドが異なる人同士でコンセンサスを取るには客観的なデータが不可欠であるからです。

この授業では、データとは何か、データから何を見ることができているのかをまず学びます。その上で、課題となるデータにどのような処理を加えることで、どんな結論を導き出すのか、実際に各自で取り組み、発表を繰り返す形で学んでいきます。

この授業を通して、科学的・論理的な問題解決のために必要な、データを通した客観的な意思決定の能力を身につけてもらいたいと考えています。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

データサイエンスに関する基本的な理論を理解し、自らもデータを分析する基礎的な技術を身につけている。

< 高い問題解決能力と表現力 >

データサイエンスに関して高度な専門性を持つ相手と、データの分析や理解について、十分な意見交換が出来るようになる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

データの分析や解釈において、やるべきこと、やってはならないことを理解し、実践できるようになる。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内光悦他著、実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編、秀和システム
○山田剛史他著、Rによるやさしい統計学、オーム社

問題解決スキル【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション，事前テスト，グループ分け
- 2回 事前テスト解説，Excel入門【データの読み取り】【グラフ】【Microsoft Excel】
- 3回 グループワークI，要約統計量の算出【平均値】【分散】【標準偏差】
- 4回 データ分析の基本I【統計的仮説検定】
- 5回 データ分析の基本II，グループワークII【回帰分析】【データからの知識抽出】
- 6回 Rのインストールと使い方入門【R】
- 7回 グループワークIII データの再分析
- 8回 様々な分析手法I【クラスター分析】【コレスポンデンス分析】
- 9回 様々な分析手法II【コンジョイント分析】
- 10回 グループワークIV
- 11回 分析結果発表
- 12回 班ごとの分析データ決定
- 13回 分析方針の発表と必要な分析手法の説明
- 14回 グループワークV
- 15回 最終発表と講評

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 普通の授業への参加度合い...50%
尚，欠席は減点の対象となります。また，第1回目の事前テストは成績と関係ありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本的にはグループワークとなり，毎週次の週の報告のための準備が必要になります。

履修上の注意 /Remarks

PCを用いてデータを実際に分析することが中心となる授業です。そのため，原則としてノートPCを持参するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チーム・マネジメント【夜】

担当者名 池田 浩 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	チームマネジメントに関する専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能	○	事業立ち上げに必要なチームを編成しまとめる力を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	課題解決に必要なチームの特性を理解し、チームをつくる力を修得する。
	地域リーダー態度	○	優れたチームマネジメントを実践するリーダーシップを修得する。
	国際協調態度		
		チーム・マネジメント	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

この授業では、チームを構成するメンバーが、活動を通して相互作用する過程でチームに備わってくる（創発されてくる）特性としてチームワークやチーム・シナジーを理解する。そして、優れたチームを形成するために必要とされるチーム・リーダーシップとして、チームレベルとして発生する共有型・分有型リーダーシップ、メンバーを下から支援するサーバント・リーダーシップを理解しながら、チームをより高品質なものへと育み、強化するための働きかけを考える視点について論じていく。

グループ・ダイナミクス、社会心理学、組織行動論を学術的論者の基盤としつつ、組織現場で発生している現実問題を題材として取り上げながら、いかなるマネジメントが効果的であるのかを、マイクロレベル（＝個人の心理プロセスや行動特性）と、それらが相互作用することでできあがり、また変容していくマクロレベル（チーム・パフォーマンス、チーム規範、チームワーク等）の相互作用ダイナミズムに注目しながら、講義を進めていく。具体的に取り上げるトピックは、次のような構成を考えている。

1. チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史
2. チームとは何か
3. チーム・モチベーション
4. チームワークとは何か
5. チームにおける問題解決
6. チーム・リーダーシップ
7. サーバント・リーダーシップ
8. メンバーのフォロワーシップ

DPに基づく到達目標

<<高度な専門的知識・技能>>

チームとそれを導くマネジメントに関する概念や用語を理解できる。

<<高い問題解決能力と表現力>>

チーム（それに準ずる職場集団）が機能する上での課題を認識し、それを解決するための糸口を導くことができる。

<<高い倫理観に基づいた自律的行動力>>

リーダーとしてメンバーの自律性を促すために彼らを支援すると同時に、メンバーとしても自らが主体となりリーダーやチームに尽力することができる。

教科書 /Textbooks

池田浩『モチベーションに火をつける 働き方の心理学』日本法令 2021年 ¥1760

その他、必要な資料は、各授業において配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「チームワークの心理学 - よりよい集団づくりをめざして - 」山口裕幸(著)サイエンス社

「チームが機能するとはどういうことか」 Amy C. Edmondson (著), 野津 智子 (翻訳) 英治出版

「サーバント・リーダーシップ」ロバート・グリーンリーフ (著) 金井壽宏 (監修)・金井真弓 (訳) 英知出版

チーム・マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、集中講義形式での開講を予定しており、第1日(金・2コマ)+第2日(土・6コマ)+第3日(金・2コマ)+第4日(土・5コマ)で構成を考えている。また、講義を基盤とするが、課題を準備して、自らの意見を考えたり、受講生どうして議論したりする、演習形式も適宜、取り入れる。

<1日目:2コマ(講義を中心に進めます)>

① チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史【機械組織観、ホーソン研究、オープン組織】

② チームとは何か【チームの特性、類型、規範、硬直化現象】

<2日目:6コマ(講義とグループワーク)>

③ チーム・モチベーション(1)【ワークモチベーション、プロセスロス、プロセスゲイン、腐ったリンゴ効果】

④ チーム・モチベーション(2)(映像資料の視聴とそれに基づく討論)【モチベーション伝染、感謝】

⑤ チームワークとは何か(1)【チームワークに関するグループワーク】

⑥ チームワークとは何か(2)【相互調整、相互支援、共有メンタルモデル、トランザクショナル・メモリー】

⑦ チームにおける問題解決(1)【ダイバーシティ、フォルトライン(断層)、インクルーシブ(包摂生)】

⑧ チームにおける問題解決(2)【チームにおける創造性、集団意思決定、心理的安全性】

<3日目:2コマ(講義を中心に進めます)>

⑨ チーム・リーダーシップとは何か【信頼、影響力、共有型リーダーシップ、分有型リーダーシップ】

⑩ チーム・リーダーに求められる特性【コンピテンシー、性格、能力、倫理性】

<4日目:5コマ(講義と演習)>

⑪ チームメンバーを下から支えるサーバント・リーダーシップ【奉仕、支援、自己犠牲】

⑫ チームメンバーを下から支えるサーバント・リーダーシップ(課題を用いた演習)

⑬モチベーションを鼓舞するリーダーシップ【モチベーション・マネジメント、コーチング】

⑭ チームメンバーのフォローアップ【フォローアップ、積極的関与、独自の考え方】

⑮優れたチームを作るために(総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の途中で課される課題への解答の精度(25%)、課題や議論への参加態度(25%)、期末レポート(50%)を総合して成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(1) 授業開始前までに、あらかじめ授業計画に記載してある各回のキーワードについて、その概念を調べたうえで、出席するようにしてください。

(2) 授業終了後、疑問の残っている点をノートに書き出したうえで、次の日の授業に出席してください。その疑問について授業の中で発表していただき、議論します。

履修上の注意 /Remarks

集中講義で開講しますので、1コマだけ休むということが難しい授業です。全コマ出席できることをあらかじめ良く確認して履修するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

組織の職場において、どうすれば人は自律的なモチベーションをもって仕事に取り組むことができるか、相互に高質な協力連携をすることができるか、また管理者の立場に立ってそれらをどのようなマネジメントによって引き出すことができるかを理論的根拠とともにそれを支持する実証的な知見(データ)を添えながら講義を行います。それに加えて、受講者の皆様のご発言を頂きながら、理論と実践とを結びつけていきます。

キーワード /Keywords

チーム、チームワーク、チーム・モチベーション、チーム・マネジメント

国際経営【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	国際経営の理解に必要な理論的専門知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	国際経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその分析と解決策の提示ができる。
	実務技能		
	新規事業技能	△	国際的に新事業を展開するに必要とされる技能を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	国際経営を遂行するにあたって必要とされる挑戦的姿勢と変革する能力を修得する。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	国際経営を遂行するにあたって必要とされる相互理解の態度と協調的姿勢を修得する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

国際経営

授業の概要 /Course Description

国際経営（経営のグローバル化）に関する広い視野と深い洞察力、特に企業の国際事業戦略に関する専門知識、ノウハウの取得と思考力の強化を目的とする。講義内容は大きく3部構成とする。第1部では国際経営の基礎概念、代表的な学説を概説した上、関係統計を通じて経営国際化進展の全体像を掴む。第2部では、経営国際化に関わる戦略的な側面を中心に学ぶ。第3部ではケーススタディを行い、討論を通じて全体内容に対する理解を深めていく。

自ら開発したケース教材を使用すると共に、国際ビジネスの現場経験を有する経営者または専門家をゲストに迎える予定。受講生のバックグラウンドとニーズに大きなばらつきがあることに鑑み、初講義時にアンケートによる確認を行った上、3～4人単位のグループ分けを行う。

到達目標：

知識・理解 国際経営、国際ビジネスに関する基礎的な、高度な専門知識を学習し、特に複雑なグローバル経営環境に関わる戦略的な判断の重要性に関する理解力を修得できる。

分析解決技能 グローバル的視野を持ち、異文化異制度の下で発生する特殊な課題への適切な対応力を身に付ける。

倫理観・協調性 グローバル化に伴う事業展開のしやすさとともに、進出先の主権尊重やパートナー企業との相互理解によるwin-win関係の構築・協調姿勢の修得を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅川和宏著『グローバル経営入門』日本経済新聞出版社
 江夏健一ほか編『国際ビジネス理論』（シリーズ国際ビジネス2）中央経済社
 吉原英樹編著『国際経営論への招待』ミネルブア書房
 経済産業省編『通商白書』（各年版）
 JETRO編『世界貿易投資白書』（各年版）

国際経営【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：講義の狙い、内容構成と進め方の説明
- 第2回 「経営国際化」、「多国籍企業」とは【企業の国籍】
- 第3回 多国籍企業の誕生、発展段階【株式会社誕生起源説】【4類型化】
- 第4回 企業の多国籍化の誘因【貿易摩擦回避型】【原価削減型】【PLC説】【資本余剰説】
- 第5回 基本統計の解説【国際収支ベース】【対外・対内直接投資】【グローバル企業ランキング】
- 第6回 多国籍企業の所有戦略【持ち分型】【非持ち分型】【技術供与契約方式】
- 第7回 渉外租税規制強化の動向【実効法人税率】【OECDの勧告】
- 第8回 多国籍企業の租税戦略【RHQ】【タックスヘイブン】【移転価格】
- 第9回 ケーススタディⅠ：パナマファイル
- 第10回 グループ討議
- 第11回 日系企業経営現地化の課題と挑戦【意思決定権限】【人事】【技術・ノウハウの移転】
- 第12回 日系企業に関する現地調査報告
- 第13回 ケーススタディⅡ：ホンハイによるシャープ買収【EMS】、【M&A】
- 第14回 グループ討議
- 第15回 グループプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題レポート 50%
- 討論への貢献度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- * 数回必読資料を配布予定
- * 学習支援フォルダーにレジメや参考資料を掲載する予定で、事前学習をしておくこと
- * 討議後に数回課題レポートを課す予定で、課題ごとにグループ討議を行う。自らの問題意識を明確に磨くために課題と討議の機会を積極的に活用すること

履修上の注意 /Remarks

- 紹介資料、配布資料を熟読すること
- 課題提出期限を厳守すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 講義中にいつでも自由に質疑・発言する心掛けを！
- 自分の個性・強みをフルに出して頂きたい！
- 本講義を受講した上での夏期集中講義「海外研修」への参加をお勧めします

キーワード /Keywords

地域づくり総論【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	地域が直面する問題や課題についてマネジメント理論を踏まえた議論ができる。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能	○	地域の問題や課題の解決に向けた構想を各種の連携を踏まえて具体的に提案できる。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域リーダーの自覚のもと、地域の諸問題に対して幅広い視点で提案できる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

地域づくり総論

授業の概要 /Course Description

わが国は既に人口減社会に突入しており、経済活力の低下が深刻化しつつある。とりわけ、地方における経済活力の低下は極めて深刻な状況となっている。そのため、これまで以上に地域づくりや地域産業振興への関心が高まっている。しかしながら、従来の行政中心の手法には限界があり、行政の枠を超えたマネジメントのもとでの地域づくりや地域振興が求められている。そこで本講義では、行政の枠を超えた地域づくりのケーススタディ等により、様々な担い手によって実行される地域づくりに必要な戦略やチームマネジメントについて学ぶものとする。

DPに基づくの到達目標

< 高度な専門知識・技能 >

地域づくりの現場における課題を具体的に抽出できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

地域活性化につながる地域資源を具体的に発掘し、地域活性化につながるプランを立案できること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

地域づくりを担う具体的なチームの体制を提案し、地域におけるリーダーシップのあり方を理解できること

教科書 /Textbooks

その都度、指示します（基本はプリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

P.F.ドラッカー「非営利組織の経営」ダイヤモンド社
P.F.ドラッカー「イノベーションと企業家精神」ダイヤモンド社
ロバート・K・グリーンリーフ「サーバント・リーダーシップ」英治出版
ジェームズ・C・コリンズ「ビジョナリーカンパニー【特別編】」日経BP社
広井良典「コミュニティを問いなおす」ちくま新書
塩沢由典・小長谷一之「まちづくりと創造都市-基礎と応用-」晃洋書房
吉本哲郎「地元学をはじめよう」岩波ジュニア新書
中川淳「経営とデザインの幸せな関係」日経BP社

地域づくり総論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①地域の現状から「既に起こった未来」を探せ
【北九州地域の現状の確認：高齢化・都心空洞化・人口減少、人口構造、消費低迷】
- ②、③再都市化と都心機能の変遷
【北九州における再都市化の動向：中心市街地、再都市化、まちなか居住】
【都心における新しい潮流：深夜化・24時間化、生活拠点化、エキマチ化、歓楽街、都心劣化、多文化共生】
- ④、⑤中心市街地問題の真髄を考察する
【佐世保の街づくりケースによるディスカッション：地域コミュニティ、地域イベント、自助・互助・公助】
【中心市街地問題の諸相：地域コミュニティ、不動産問題、ジェントリフィケーション】
- ⑥、⑦地域づくりのケーススタディ（フィールド・ワーク）
【中心市街地の活性化：小倉の繁華街の実態：商店街、歓楽街、再開発、再都市化、サービス経済化】
- ⑧、⑨地方創生政策の限界と地域コミュニティの行方
【地方創生政策の評価と今後：地方創生の成功事例・失敗事例、移住、地方自治制度】
【地域コミュニティとは？：公/共/私、外部マネジメント、人的ネットワーク、ソーシャルキャピタル】
- ⑩、⑪事例に学ぶ地域資源と地域事業創造
【地域資源の発掘方法：地域資源、差別化戦略、マーケティング戦略、地域ブランド、由布院、日田】
【ディスカッション：北九州における未開の地域資源は何か？】
- ⑫、⑬地域づくりにおける事業創造の実際（ゲスト講師を招聘）
- ⑭、⑯地域事業創造のためのフォーメーションとリーダーシップ
【地域事業創造に必要な構成要素：サーバントリーダーシップ、ソーシャルメディア、ダウンサイジング、地域協働】
【ディスカッション：これからの地域事業～どんな地域課題に対して、どんな地域資源を生かして、誰とつながるのか？～】 /

成績評価の方法 /Assessment Method

街づくりケースに係るレポート（30%）、地域づくりに係るワークシートのアイデア（30%）、ディスカッションに対する貢献度（40%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については適宜、資料や文献の確認・精読等を指示します。関心のある方は、可能な範囲で上記の参考書を読んで講義に臨んで下さい。また、興味のある地域を自分の足で歩き注目した点や問題点をピックアップしておいてください。
事後学習については、講義に活用したパワポをmoodleにあげるの、復習・確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

マーケティングや経営戦略といったベーシック科目をしっかり習得していることを期待します。また、できればパブリックマネジメントやソーシャル・ビジネス、ホスピタリティとサービスの履修していることが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネススクールならではのマーケティング等の知見を応用しつつ、地域づくりを多角的に捉えて、具体的な案件をとりあげて議論を深めたいと思います。

キーワード /Keywords

地域事業創造、コラボレーション、すでに起こった未来、地域コミュニティ、ソーシャルキャピタル、ソーシャル・ビジネス、市街地活性化、繁華街、歓楽街、社会的課題、合意形成、地域協働、公共空間利用、地域資源、サーバント・リーダーシップ

会社法【夜】

担当者名 舞田 靖子 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	高度専門職業人として活動するために有益となる会社法に関する知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	○	ビジネスにおいて生じ得る会社法上の問題を発見・処理するための技能を修得する。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

会社法

授業の概要 /Course Description

企業を取り巻く法律・法的問題は多岐にわたります。また、企業の健全な発展と成長のためには、企業の利益追求のみならず、CSRやコンプライアンスを意識し、コーポレートガバナンスやリスクマネジメントに留意することが必要です。ビジネス法務の観点からは、紛争やクレーム対応等の臨床法務に留まらず、予防法務や戦略法務を意識することも重要です。そこで、本講義では、ビジネス法務に関する基礎的事項について概括的な解説を行うとともに、企業が直面する様々な法的問題について事例を通して検討し、又は実例をもとに法的観点から検討することにより、経営倫理の観点とともにビジネス法務の問題への適切な対応方を身に付けることを目指します。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

社会的事象においてビジネス法務に関する問題の所在を把握でき、関連する概念や用語を理解できる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

法的な問題解決に資する事実関係を整理し、法的思考に基づき意見を述べることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

利害関係人の権利にも配慮し妥当な結論を導き出すことができる。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・高巖著『ビジネスエシックス[企業倫理]』2013年、日本経済新聞出版社
 - ・マックス・H・ハイザーマン著 / 池村千秋 訳
『倫理の死角 - なぜ人と企業は判断を誤るのか』2013年、NTT出版
 - ・國部克彦/神戸CSR研究会編著『CSRの基礎』2017年、中央経済社
 - ・中村信男 / 和田宗久著『ビジネス法入門 (第2版)』2017年、中央経済社
 - ・伊藤正己 / 加藤一郎編『現代法学入門』(第4版)2005年、有斐閣双書
 - ・道垣内弘人著『リーガルベシス民法入門』(第3版)2019年、日本経済新聞出版社
 - ・江頭憲治郎著『株式会社法』(第7版)2017年、有斐閣
 - ・弥永真生著『リーガルマインド商法総則・商行為法』(第3版)2019年、有斐閣
- その他、必要に応じて指定します。

会社法 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① オリエンテーション、CSRと経営倫理、企業をとりまく法律【経営倫理とビジネス法務】【全体像】
- ② 企業の種類、会社の機関設計、ステークホルダー【企業概説】
- ③ 私法上の法律関係【私法概説】
- ④ 契約法務(1)【契約と債権法】
- ⑤ 契約法務(2)【契約各論】
- ⑥ 秘密情報管理、知的財産【秘密情報(個人情報を含む)の管理】【知的財産権概説】
- ⑦ 紛争処理【紛争解決の手段と方法】
- ⑧ 企業、役員の実務【役員の実務と責任、損害賠償】
- ⑨ コンプライアンス、危機管理【コンプライアンスと不祥事対応】
- ⑩ M & A/組織再編(1)【M & A/組織再編の種類、法手続き概要】
- ⑪ M & A/組織再編(2)【M & A/組織再編の方法、ケーススタディ】
- ⑫ ファイナンス【資金調達手段と法】【担保・保証】
- ⑬ 倒産/事業再生【企業の倒産、事業再生の手法】
- ⑭ 演習(1)【ケーススタディ】【グループディスカッション】
- ⑮ 演習(2)【ケーススタディ】【グループディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度(発言・質問・発表の回数や内容)60%、
事前課題・レポート又は小テスト(取組状況・内容)40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として次回講義に用いる例題や課題を事前に示しますので、当該例題・課題を次回講義までに事前学習として検討してください。講義後の復習は各自で行ってください。

履修上の注意 /Remarks

法律の予備知識は無いことを前提に基礎的事項の概説も行いますが、講義内容を実践的に身につけるためには、自身の周囲の環境や社会の実例等に照らして具体的に検討してみることが重要です。また、講義で用いる例題等について発表してもらった場合があります。詳細は第1回の講義で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な発言、参加を歓迎します。

キーワード /Keywords

CSR、SDGs、ESG、コンプライアンス、企業法務、予防法務、戦略法務、バランス感覚

管理会計【夜】

担当者名 市原 勇一 / YUICHI ICHIHARA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 管理会計の理論の理解に必要な専門知識を修得する。
	実践知識	◎ 管理会計の実践に必要な専門知識を習得する。
技能	分析解決技能	○ 管理会計の諸問題を解決するための分析手法を習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	△ 管理会計に関わる諸問題に関心を持ち続け、市民としての社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

管理会計

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

企業をはじめとする組織が目的に活動するためには、組織目的を実現するための仕組みが必要です。様々なマネジメント・コントロール手法を内包した管理会計は、そのような目的達成の重要な仕組みのひとつとして企業経営において大事な役割を担っています。本科目では、管理会計の構造と機能について知識を修得するとともに、具体的な管理会計の問題についてグループワークを通じて理解を深めることを目的とします。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

管理会計の理論知識を修得し、実務において実践できる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの組織が抱える問題に管理会計の理論知識および実践知識を適用できる。

< 高い倫理観に基づいた自立的行動力 >

管理会計に関連した倫理的問題について理解し、管理会計を適切に設計・運用できる。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上総康行 . 2014 . 『ケースブック管理会計』 新世社 .

上総康行 . 2017 . 『管理会計論 第2版』 新世社 .

管理会計【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【授業の内容】

1. ガイダンス (管理会計の学び方)
2. 企業経営と管理会計
3. 管理会計の歴史
4. 管理会計の体系
5. 中長期利益計画
6. 戦略支援会計① : BSC
7. 戦略支援会計② : 資本予算
8. 戦略支援会計③ : 原価企画
9. グループワーク中間報告
10. 短期利益計画
11. 予算管理
12. 限界利益による予算管理
13. 事業部制会計
14. ミニ・プロフィット・センターの利益管理
15. グループワーク最終報告

(なお、受講生の興味や関心などに応じて変更する可能性がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークの内容 (30%)、日常の授業への取り組み (30%)、期末最終レポート (40%) にて評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】グループワーク報告の際には報告資料を作成すること。

【事後学習】毎回の講義内容について復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計、管理会計、経営管理、マネジメント・コントロール

財務諸表分析 【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 会計業務や開示に関する実践的な知識を応用し、課題に取り組める。
	実践知識	○ 理論的な知識を実践可能な知識に落とし込むことができる。
技能	分析解決技能	◎ 課題に対する観察能力と、定性的、定量的な分析能力を習得している。
	実務技能	◎ 実務的な簿記会計の技能を身につけることができる。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 経営倫理なにかんずく会計倫理の観点を得、粉飾のリスクを知り、回避する。
	企業変革態度	○ 会計処理とシステムの効率化、有効化促進のための視点を獲得。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務諸表分析

授業の概要 /Course Description

本講座では、大学院マネジメント研究科の必修ベーシック科目であるアカウンティングの知識を基礎にしつつ、財務会計領域の知識を幅広く積み上げ、そのうえで上場大企業のアニュアルレポートを読み下す能力を身に着ける。本講座では、実際の財務諸表を解析しながら、分析対象企業のパフォーマンス状況を分析し、その結果得られた所見につき、教室内で議論しあう機会を提供する。関る思考プロセスにあってはむしろん、国際会計基準（IFRS）の考え方を知り、その発想方法を援用することもあろう。

本講義の到達目標は、履修者に様々な財務諸表分析の視点を与え、受講者が決算書から、意思決定に必要な情報を自在に取り出せるようになることである。前提科目たるアカウンティングの上位に位置する科目ではあるが、より実践的、実践的に財務報告数値に対峙し、経営的判断のベースを得ることができるだろう（本講座では直に数字に取り組むので、例年、かえってアカウンティングの授業よりも具体的に判り易く思う受講者もおられるようである）。

なお、英文のものを含め株日本電気等の実際のアニュアルレポートを配布する予定だが、受講上、特段、英語の読解力は必要とはされない。（到達目標）

【知識・技能】財務諸表分析の基礎的な技法を習得する

【問題解決能力・表現力】財務数値のベンチマークを知り、異常値に気づき、それらを認識・報告する能力を得る

【倫理観・自律的行動力】あるべき財務ディスクロージャーを模索し、監査法人等外部専門家との関係性を知る

教科書 /Textbooks

任 章著『アカウンティングと財務諸表分析』第14版 無償頒布
(ベーシック科目たるアカウンティングの授業で配布したテキストを継続使用します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・(下記、あくまで例示である。推薦できる会計関連図書は実のところたくさんある)

田中建二著『財務会計入門』中央経済社

あずさ監査法人編『有価証券報告書の見方・読み方』清文社

(但し授業には全く用いず、購入は任意である)

・任章著(2017)『監査と哲学 - 会計プロフェッションの懐疑心 - 』同文館(会計学の概念と学問的定義、会計学の歴史、会計監査基準の展開、アメリカ会計界のダイナミズム等を知る上で参考にしていただけたらと思います)

財務諸表分析 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の如きコンテンツに関わる理解を深め、各々モジュールにして組み立て、財務会計全般の知識の体系化を図る（以下は講義内容の要素を挙げたに過ぎない。特に学期後半に至ってプレゼンテーションの時間を要するため、講義内容や講義順は大きく変わることがある）。

- ①オリエンテーション：本講座でカバーされる領域と目的、課題等について【オリエンテーション】
- ②1学期アカウンティングのテキストの復習（財務諸表分析のパートを中心に）【アカウンティング】
- ③財務諸表分析の基本的な枠組みをblankシートを用いて説明【財務諸表分析のフレームワーク】
- ④㈱NECの財務数値の検討【アニュアルレポート（NEC）】
- ⑤㈱安川電機の有価証券報告書の検討【有価証券報告書（安川）】
- ⑥財務諸表分析とその応用：企業価値評価に向けての展望【企業価値評価】
- ⑦財務諸表監査と監査意見の種別の学習【法定監査と監査意見】
- ⑧上場企業に対する制度会計の枠組み、不正の摘発、米国SEC 行政処分事例の実例等【金融庁・SEC】
- ⑨中間ミニテストの実施【中間ミニテスト】
- ⑩他大学教授を招聘して関連テーマでの特別講演会を実施（時期未定。例年11月～12月頃）
- ⑪～⑬履修者によるプレゼンテーション【プレゼンテーション】
- ⑭財務諸表分析のWrap-up.【まとめ】
- ⑮期末ミニテストの実施【期末ミニテスト】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの質(20%程度)、プレゼンテーションへの取組みの積極性やディスカッションに際しての貢献度(20%位)、試験の成績(2回実施で60%位)等を適宜ウェイト付けし、総合的に100%にして判断します（注意：但しコロナ禍の懸念による全面遠隔授業への移行の際には課題レポートの質による評価割合が80%程度に増えます）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業内容についての質問は教室のみならず、メールにても随時受け付け、個別に返答、あるいは学内（ムードル）イントラシステムを介して回答します。講義回終了時に可能な限り、次回の範囲を予告します。事前学習は軽く、その該当箇所のコンテンツにイメージを持つ程度で良いでしょう。事後学習は、講義時間中の説明でわからなかったところを教員に質問し、かつ、その後のミニテストに備えて、用語、計算式の両方に習熟しておくことが望まれます。

履修上の注意 /Remarks

その都度お伝えします。各回配布済プリント等も忘れず毎回、授業に際し持参してください。簡易な電卓も持参されると良いでしょう。財務諸表分析の講座ではありますが、計算上の分析にとどまらず、結果的には会計の機能や社会的な役立ちを幅広く俯瞰する科目になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は、履修者が自らの会計的視点を確立するための、ファシリテーターとしての役割を果たします。履修者自身が選んだテーマや企業に関わり、プレゼンテーションをしていただく機会を設けます。ご自身の理解を深めるため、さらに、得られた知識や知見を、教室参加者と広くシェアするために、プレゼンテーション機会にはぜひ積極的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

上記に記載したキーワードのほかにも、流動性分析、利益性分析、活動量分析、GAAP、IFRS、B/S、P/L、キャッシュフロー計算書、監査等（たくさんあります）。

人材マネジメント【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 人材マネジメントの実践や理解に必要な基礎的理論知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 人材マネジメントの評価・分析に必要な基礎的枠組みを習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革における人材の関わりと人材マネジメントの役割を理解する。
	地域リーダー態度	○ リーダー育成にまつわる人材マネジメントの役割と方法論を理解する。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

人材マネジメント

授業の概要 /Course Description

企業戦略達成に向けた人材マネジメント（人的資源管理・人事労務管理）の実践の基礎を学ぶ。人材マネジメントは、職場レベルでの人材問題の解決というよりも、企業レベルでの人材の活用を志向している。企業の人材マネジメントを構成する採用や評価・報酬・育成といった各機能にまつわる理解を基礎に、それらを結合して企業の人材マネジメントシステムを作り上げるための視点の学習を進めていく。各講義回では、ケースやミニ・ケースをもとに事例分析やケース・ディスカッションを行い、さらには受講生自身の事例発表をもとに、受講生の持つ実務上の疑問を解消するべく、人材マネジメントにまつわる基礎的な諸理論・枠組みの理解と実践力の向上を図る。

DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

人材マネジメントに関連する概念や枠組み、用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

企業・組織における人材マネジメント問題を抽出し、その解決へアプローチできる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

よりよい人材マネジメントの実現にむけた改善・改革を推進することができる。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布するが、参考書にある守島『人材マネジメント入門』と今野&佐藤『人事管理入門<第2版>』を教科書に準じた参考書と位置付けて講義を進める。なお、ケース教材を用いる場合、そのケース代金（1冊千数百円）が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。なお、企業の人材マネジメントについての初学者は、参考書のいずれかの通読を強く推奨する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 守島基博『人材マネジメント入門』日経文庫,2004年.
- 高橋俊介『人材マネジメント論 新版』東洋経済新報社,2006年.
- フェファー『人材を活かす企業』翔泳社,2010年.
- 今野浩一郎&佐藤博樹『人事管理入門<第2版>』日本経済新聞社,2009年.

人材マネジメント 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- #1 ガイダンスと戦略的な人材マネジメント(1)【SHRM、戦略人材】
- #2 戦略的な人材マネジメント(2)【SHRM、人材像】
- #3 戦略的な人材マネジメント(3)【人材ポートフォリオ、HRMシステム】
- #4 フロー・マネジメント(1)【採用マネジメント】
- #5 フロー・マネジメント(2)【ハイ・パフォーマー】
- #6 評価・報酬マネジメント(1)【社員格付け制度、職能資格制度】
- #7 評価・報酬マネジメント(2)【能力主義、成果主義】
- #8 評価・報酬マネジメント(3)【インセンティブ、昇進マネジメント】
- #9 評価・報酬マネジメント(4)【評定尺度、行動基準】
- #10 人材育成(1)【OJT、Off-JT、知的熟練】
- #11 人材育成(2)【ジョブ・ローテーション、一皮むける経験】
- #12 フロー・マネジメント(3)【定年、アウトプレースメント】
- #13 労使関係【5factor、集团的労使関係、個別的労使関係】
- #14 戦略的な人材マネジメント(4)【HPWS、パフォーマンス・マネジメント】
- #15 戦略的な人材マネジメント(5)【企業変革、CHO】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度40%、期末レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前学習教材と問いを指定し、事前学習向けに参考図書の章を指定するので、それらに対する事前学習をしっかりと行うこと。また、講義で理解が進まなかった点について復習を行うことに加えて、発展学習として指定した書籍・論文などを閲覧し、理解をさらに深めることが期待される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域産業【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	日本の地域産業が直面する問題、課題について、十分な議論を行うことができる。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域リーダーとして主体的に行動をおこし、地域産業に関わる諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

地域産業

授業の概要 /Course Description

日本の高度経済成長を支えてきた様々な地域産業は、時代変化の中で大きく変容している。そのため、地域産業の担い手であった企業、とりわけ中堅・中小企業はその対応追われる状況は長く続いている。そこで、本講義では前半部分で地域産業の変容の実態を概観しながら、これからの新産業を展望し、企業としてやるべき経営革新とは何かを考察する。また、後半部分では事業創造の手段の1つである「産学連携」に焦点をあてて、産学連携による新事業創造の実際の事例を学びながら、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門知識・技能 >

地域産業の変容を適切に捉えて事業創造のアイデアを生み出すことができる

< 高い問題解決能力と表現力 >

将来性があり現実的な産学連携プロジェクトのテーマを探索し、企画ができる

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

有機的かつ実践的なチーム体制を提案できる

教科書 /Textbooks

適宜、資料やレポート等をプリントにて配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中川淳『経営とデザインの幸せな関係』日経BP社

田中洋『ブランド戦略全書』有斐閣

○クレイトン・クリステンセン / ジェフリー・ダイアー / ハル・グレガーセン『イノベーションのDNA』翔泳社

玉田俊平太『日本のイノベーションのジレンマ』翔泳社

伊丹浩敬之『経営戦略の論理』日本経済新聞出版社

マイケル・E・ポーター『競争戦略I』『競争戦略II』ダイヤモンド社

地域産業【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①地域産業とは？
【地域における様々な産業の特徴とは：地域産業、地場産業、基盤産業、非基盤産業、クリエイティブ産業、立地戦略】
- ②、③地域産業と技術変革・時代転換
【サービス経済化が進む地域経済：鉄冷え、多角化、サービス産業、IT産業、シェアリングエコノミー】
【アフター・コロナの地域産業：小売業、観光業、伝統工芸産業】
- ④、⑤クラスターにおけるイノベーション可能性
【イノベーションとクラスター理論：破壊的イノベーション、持続的イノベーション、競争優位戦略、創新普及】
【クラスターマネジャーからの示唆：コラボレーション、チームワーク、研究会運営、リーダーシップ】
- ⑥、⑦中小企業による産学連携の落とし穴
【中小企業H社に係るケースによるディスカッション：人間関係、チームマネジメント、秘密保持契約、情報漏えい】
【中小企業H社から得る教訓とH社のその後：知財戦略、プロジェクトマネジメント、技術蓄積】
- ⑧、⑨産学連携プロジェクトのプロデュースのポイントと実例
【イノベーションのためのスキルと人材：ネットワーク力、関連づけ思考、技術者、質問力、観察力、産業政策】
【産学連携プロジェクト創出の実態：(仮称)植物工場プロジェクト、(仮称)アロマプロジェクト】
- ⑩、⑪産学連携の現実と可能性
【中堅企業A社に係るケースによるディスカッション：チームマネジメント、事業化、マーケティング、営業】
【地域事業創造のために：コラボレーション、マーケティング、ブランディング、立地戦略、関連付け思考】
- ⑫、⑬地域産業からの新たな事業創造の事例(ゲスト講師を招聘)
- ⑭、⑮地域に根差した産業の可能性と経営革新
【観光業の可能性：インバウンド、旅館、ホテル、飲食業、エンターテインメント、スポーツ、門司港レトロ、立地】
【工芸産業の可能性：デザイン、ブランディング、イノベーション、地場産業、産地活性化、小倉織、立地】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ケーススタディ2回に対する課題レポート(30%×2=60%)
ブランディングに係る課題レポート(20%)
その他の日常的なディスカッションに係る貢献度(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、ブランディングやイノベーションに対する基礎的な知識を習得・確認していることを期待しています。また、ポーターのクラスター論、クリステンセンのイノベーション論の習得をお勧めします。
事後学習については、講義に活用した資料や参考資料を活用して講義の確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地戦略、産業構造、サービス化、ブランディング、コラボレーション、イノベーション、技術革新、創新普及、産学連携、チームマネジメント、クラスター、ビジネスモデル、ブランディング

環境ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 環境ビジネスに関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	△ 環境ビジネス分野での新規事業構想力を身につける。
態度	倫理観態度	○ 環境問題に関する意識を高め、社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域やコミュニティの視点から環境ビジネスを構想する力を修得する。
	国際協調態度	○ 国際的な視野から環境ビジネスを構想する力を修得する。
※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		環境ビジネス

授業の概要 /Course Description

本講義では、リサイクルビジネスを中心として環境ビジネスのマネジメントについて学ぶ。第1に経済システムという視点から環境問題や環境行動を考察する。第2に、通常のビジネスとは異なる環境ビジネスに特徴的な動向や課題を把握し、解決方法を探る。第3に、環境課題を新たにビジネス化し収益を確保するためのしくみを考察する。これらの過程で、近年重要性が増しているSDGsのビジネスへの活用方法やCSVなどのフレームワークの使い方も学ぶ。

なお、参加希望者を募り、企業見学を実施する予定である。

DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

環境問題や環境ビジネスに関連する概念や用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

今日の環境問題やその原因を理解し、環境ビジネスのトレンドや課題を的確に指摘することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

環境問題の解決に寄与するビジネスモデルや企業内でのアクションを具体的に提示できる。

教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小島道一『リサイクルと世界経済』中公新書、2018年。

マイケルE.ポーター、マークR.クラマー「共通価値の戦略」『ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー』2011年6月号。

ピーター・レイシー、ヤコブ・ルトクヴィスト『サーキュラー・エコノミー』日本経済新聞出版社、2016年。

そのほか、適宜講義の中で紹介する。

環境ビジネス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【環境ビジネスとは何か】
- ② 映画をケースに環境とビジネスを考える 1
【サステナブルデベロップメントとは何か】
- ③ 映画をケースに環境とビジネスを考える 2
【SDGsの視点から環境問題を分析する】
- ④ 経済システムと環境ビジネス
【市場・行政・社会のシステムと環境問題の関わり】
- ④ CSVフレームワークを活用した環境ビジネスの創造
【CSVの概念とその活用方法】
- ⑤ SDGsを環境ビジネスに活かす
【SDGsの概念とその活用方法】
- ⑥ 現場から考えるSDGsビジネス 1
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑦ 現場から考えるSDGsビジネス 2
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑧ リサイクルビジネスと環境産業クラスター 1
【環境産業クラスターの現状と課題】
- ⑧ リサイクルビジネスと環境産業クラスター 2
【環境ビジネスにおける戦略とクラスターのCSV】
- ⑩ リサイクルビジネスの課題と解決方法 1
【リサイクルビジネスの特徴と入口・出口問題】
- ⑩ リサイクルビジネスの課題と解決方法 2
【リサイクルビジネスの市場を創る方法】
- ⑫ ケース教材で考える環境ビジネスの創造 1
【市場化されていない環境問題のとらえ方】
- ⑫ ケース教材で考える環境ビジネスの創造 2
【環境市場の新規開拓と顧客創造】
- ⑭ 課題発表とディスカッション 1
【課題プレゼンテーションおよびディスカッション】
- ⑭ 課題発表とディスカッション 2
【課題プレゼンテーションおよびディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度（発言回数、発表内容、建設的な対話など）：60%、課題の内容（レポートなど）：40%により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を課すので、次回に授業までに準備しておくこと。課題の内容については、次回の授業のための資料の読み込みや論点の整理、あるいは授業で得た知見を活用したレポート作成を予定している。

履修上の注意 /Remarks

受講に際しては、一方で環境問題や環境活動に対する固定観念を一度取り払うこと、もう一方で環境問題に関連する社会経済の動向に注意を払うことを求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナの状況によっては、企業見学ができなかったり、シラバス内容を変更せざるを得ない場合がある。その場合にはmoodleでの掲示や授業での説明を行う。

キーワード /Keywords

環境問題、環境ビジネス、リサイクル、エコタウン事業、CSV、SDGs

経営倫理と企業法務【夜】

担当者名 舞田 靖子 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	企業法務に関する基礎的知識を習得する。
技能	分析解決技能	◎	企業活動上の法的な課題を発見し、適切なリスクマネジメント能力を習得する。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	◎	プロフェッショナルとしての経営倫理を身につける。
	企業変革態度	○	リスクマネジメントやガバナンスの観点から企業経営に取り組むことができる。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営倫理と企業法務

授業の概要 /Course Description

企業を取り巻く法律・法的問題は多岐にわたります。また、企業の健全な発展と成長のためには、企業の利益追求のみならず、CSRやコンプライアンスを意識し、コーポレートガバナンスやリスクマネジメントに留意することが必要です。ビジネス法務の観点からは、紛争やクレーム対応等の臨床法務に留まらず、予防法務や戦略法務を意識することも重要です。そこで、本講義では、ビジネス法務に関する基礎的事項について概括的な解説を行うとともに、企業が直面する様々な法的問題について事例を通して検討し、又は実例をもとに法的観点から検討することにより、経営倫理の観点とともにビジネス法務の問題への適切な対応方策を身に付けることを目指します。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

社会的事象においてビジネス法務に関する問題の所在を把握でき、関連する概念や用語を理解できる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

法的な問題解決に資する事実関係を整理し、法的思考に基づき意見を述べることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

利害関係人の権利にも配慮し妥当な結論を導き出すことができる。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・高巖著『ビジネスエシックス[企業倫理]』2013年、日本経済新聞出版社
 - ・マックス・H・ベイザーマン著 / 池村千秋 訳
『倫理の死角 - なぜ人と企業は判断を誤るのか』2013年、NTT出版
 - ・國部克彦/神戸CSR研究会編著『CSRの基礎』2017年、中央経済社
 - ・中村信男 / 和田宗久著『ビジネス法入門 (第2版)』2017年、中央経済社
 - ・伊藤正己 / 加藤一郎編『現代法学入門』(第4版)2005年、有斐閣双書
 - ・道垣内弘人著『リーガルベイス民法入門』(第3版)2019年、日本経済新聞出版社
 - ・江頭憲治郎著『株式会社法』(第7版)2017年、有斐閣
 - ・弥永真生著『リーガルマインド商法総則・商行為法』(第3版)2019年、有斐閣
- その他、必要に応じて指定します。

経営倫理と企業法務【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① オリエンテーション、CSRと経営倫理、企業をとりまく法律【経営倫理とビジネス法務】【全体像】
- ② 企業の種類、会社の機関設計、ステークホルダー【企業概説】
- ③ 私法上の法律関係【私法概説】
- ④ 契約法務(1)【契約と債権法】
- ⑤ 契約法務(2)【契約各論】
- ⑥ 秘密情報管理、知的財産【秘密情報(個人情報を含む)の管理】【知的財産権概説】
- ⑦ 紛争処理【紛争解決の手段と方法】
- ⑧ 企業、役員の実務【役員の実務と責任、損害賠償】
- ⑨ コンプライアンス、危機管理【コンプライアンスと不祥事対応】
- ⑩ M & A/組織再編(1)【M & A/組織再編の種類、法手続概要】
- ⑪ M & A/組織再編(2)【M & A/組織再編の方法、ケーススタディ】
- ⑫ ファイナンス【資金調達手段と法】【担保・保証】
- ⑬ 倒産/事業再生【企業の倒産、事業再生の手法】
- ⑭ 演習(1)【ケーススタディ】【グループディスカッション】
- ⑮ 演習(2)【ケーススタディ】【グループディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度(発言・質問・発表の回数や内容)60%、
事前課題・レポート又は小テスト(取組状況・内容)40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として次回講義に用いる例題や課題を事前に示しますので、当該例題・課題を次回講義までに事前学習として検討してください。講義後の復習は各自で行ってください。

履修上の注意 /Remarks

法律の予備知識は無いことを前提に基礎的事項の概説も行いますが、講義内容を実践的に身につけるためには、自身の周囲の環境や社会の実例等に照らして具体的に検討してみることが重要です。また、講義で用いる例題等について発表してもらった場合があります。詳細は第1回の講義で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な発言、参加を歓迎します。

キーワード /Keywords

CSR、SDGs、ESG、コンプライアンス、企業法務、予防法務、戦略法務、バランス感覚

ベンチャー・ビジネス【夜】

担当者名 八木田 一世 / マネジメント研究科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ ベンチャー企業成長モデルを修得する。
	実践知識	○ 戦略思考とマーケティング手法を習得する。
技能	分析解決技能	○ スタートアップと持続的成長のスキルを習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	◎ 新規の事業計画と評価法を修得する。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ コーポレートベンチャリングを実践する力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ベンチャー・ビジネス

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

新型コロナウイルスの影響もあり、社会にありながらも個として生きることによってスポットがあたり、パワーワード的にメディアに登場することも増えている「アントレプレナーシップ」ですが、それは「会社をはじめること」「スタートアップ企業としてIT方面で活躍すること」とイコールではありません。特に北九州市では組織の中にながら、社会変革に対するマインドセットをもつ「イントラプレナーシップ」も大切な要素です。本講義では起業はもちろんのこと、自分らしい人生の指針をもって、同じ志をもつ仲間達と共にアイデア×戦略を武器に、よりよい社会の実現に向けて取り組むためのスキルを学びます。講義はアイデアメイキング、プレゼンテーション、チームメイキング、ブランディングといった内容をディスカッションやワークショップ中心に進めることで、自分らしいキャリア設計を策定することをゴールとしています。

〈高度な専門知識・技能〉

アントレプレナーシップおよびイントラプレナーシップに関する概念や用語を理解し、自分なりの説明ができる。

〈高い問題解決と表現力〉

自分の興味や熱意と社会課題をマッチさせ、みつけたアイデアを膨らませ、周囲を巻き込むような行動をとれるようになる。

〈高い倫理観に基づいた自律的行動力〉

社会をよくするための活動を自発的に企画し、コミュニティにおいて新しいムーブメントを起こせるようになる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、授業毎にレジュメを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ティナ・シーリング『新版 20歳の時に知っておきたかったこと』CCCメディアハウス 2020年 1,540円

ジェームス・W・ヤング『アイデアのつくりかた』CCCメディアハウス 1988年 880円

山川恭弘『全米ナンバーワンビジネススクールで教える起業家の思考と実践術』東洋経済新聞社 2020年 2,640円

その他の文献については、講義のなかで紹介いたします。

ベンチャー・ビジネス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション【自己開示、弱い繋がり強さについて】
- ②アントレプレナーシップの定義 #1【定義・現状・事例】
- ③アントレプレナーシップの定義 #2【定義・現状・事例】
- ④アイデアの発見と拡張 #1【リサーチメソッド、発想ツールの理解】
- ⑤アイデアの発見と拡張 #2【リサーチメソッド、発想ツールの理解】
- ⑥ランチプラン発表 #1【アイデアプレゼンテーションとディスカッション】
- ⑦ランチプラン発表 #2【アイデアプレゼンテーションとディスカッション】
- ⑧チームビルディング【人と協業していくこと】
- ⑨小さくはじめるために【キャズム、資金について】
- ⑩コ・イノベーション #1【マーケティング・戦略構築】
- ⑪コ・イノベーション #2【マーケティング・戦略構築】
- ⑫最終プレゼン #1【アイデアプレゼンテーションとディスカッション】
- ⑬最終プレゼン #2【アイデアプレゼンテーションとディスカッション】
- ⑭ブランディング #1【差異化のためのブランドアイデンティティの構築方法】
- ⑮ブランディング #2【差異化のためのブランドアイデンティティの構築方法】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度（発言回数や前向きなコミュニケーション姿勢）60%、プロジェクトメイキング30%、レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必要に応じて課題を出しますが、暗記することよりも理解することを重視するので、事後学習として授業内で紹介する書籍や映像資料などを積極的に活用して欲しいです。

履修上の注意 /Remarks

エクセル、ワード、パワーポイント、キーノートなどを使った資料作成が出来ること。必要な方はタブレットやPC、スマートフォン（ネット検索のための）を持参して下さい。分野が多岐にわたるため、受講生の関心度合いに応じて内容を変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

海外の大学でビジネス学び、現役で北九州市内を中心にブランディングのプロデューサーとして仕事をしています。座学で学ぶべき概念を抑えつつ、より実践の内容を心がけて授業を進めていきます。また、授業内における積極的な受講者の参加ならびに、クラスがチームとなるようなコミュニケーションも求めます。

キーワード /Keywords

アントレプレナーシップ、イントラプレナーシップ、アイデアメイキング、ロジカルシンキング・クリエイティブシンキング・デザインシンキング、デザイン思考・デザイン経営、マーケティング、プレゼンテーション、ブランディング

戦略的提携と事業創造【夜】

担当者名 /Instructor 瀬戸 大樹 / SETO HIROKI / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 他組織との提携・連携に関する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	◎ 事業創造に必要な戦略的提携を実現するための能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革に必要とされる戦略的提携を構築する能力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

戦略的提携と事業創造

授業の概要 /Course Description

- ◆M & Aが増加している背景
 2019年度に日本企業が関わったM & A件数が4088件と過去最高を記録しました。人口減少フェーズに入った日本では国内マーケット縮小を見越して、大手企業は海外進出へ、中堅企業は国内の基盤強化を目的として、戦略的にM & Aを取り組む傾向が強く出ている（買い手の増加）のと同時に、約400万社あるといわれている国内の企業のうち、後継者がまだ決まっていない企業は全体の約3分の2に、それを理由に休廃業を余儀なくされている企業数は年間約3万社にそれぞれ増えており（売り手の増加）、近年それら課題を解決するためのM & Aが増えてきたという背景があります。
- ◆M & Aは全ての経営者が持つべき戦略ツール
 M & Aはシンプルに言えば、会社を売買する行為ですが、会社を成長させるために買うM & Aと会社を次世代に繋げるために売るM & Aの両面があり、どの経営者もその両面を十分理解したうえで経営をすることでよりダイナミックな経営判断、成長戦略をとることが可能になります。理論は最低限おさえつつも、事例や実務面を多く学ぶことでリアルにM & Aを検討できるスキルを身につけてもらうことを主眼に授業を展開していきたいと考えております。
- ◆M & Aの流れを理解し交渉実務に臨む
 事業承継の検討→企業評価→マッチング→トップ面談→基本合意→買収監査→最終契約・資金決済→PMI、といったM & A全体の流れを理解しそれぞれのステップにおいて留意すべき点を明らかにすることでM & A交渉実務をスムーズに展開できることが本授業の目的となっております。
- ◆講師
 2011年よりM & A仲介専門業者にて主に中小企業のM & A支援業務を開始、これまで50件を超える支援実績をあげております。またM & Aに関するセミナー等講演実績も30回を超えており金融機関、会計事務所等依頼元は多岐に亘り実践的でわかりやすい講義内容が好評を得ております。
- ◆講義の進め方
 授業の前半40分程度で講師が所見を述べた後、受講者はグループに分かれて自由討議を行います。その後は、グループにて議論して頂いた結果発表と講師が解説並びに評価を行います。
- ◆DPに基づく到達目標
 「高度な専門的知識・技能」
 M&A全体の流れを理解し、各ステップにおける専門知識を習得する
 「高い問題解決能力と表現力」
 戦略的提携に関する理論・事例を理解することで、自らの組織のM&A戦略が立案できる
 「高い倫理感に基づいた自律的行動力」
 M&Aの担当者として、実際の交渉実務をスムーズに展開することができる

教科書 /Textbooks

資料を都度事前に準備します

戦略的提携と事業創造【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河合雅司「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」講談社現代新書
 三戸政和「サラリーマンは300万円で小さな会社を買いなさい」講談社+α新書
 久米雅彦「中小企業M&Aにおける財務デューデリジェンスのすべて」きんざい
 熊谷秀幸「中小企業M&A実務必携」きんざい
 デービッドアトキンソン「日本人の勝算 人口減少×高齢化×資本主義」東洋経済新報社
 渡辺恒郎「業界メガ再編で変わる10年後の日本」東洋経済新報社
 竹林信幸「日本型PMIの方法論-中堅・中小企業を成長させるポストM&Aのプロセス」プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① M & A 概論～大企業と中小企業のM & Aの違い～
- ② 事業承継概論～増え続ける後継者不在企業、大廃業時代に備える事業承継～
- ③ 成長戦略概論～増加傾向にある成長戦略型M & Aについて～
- ④ マッチング、相乗効果の研究～M & Aによる相乗効果・組み合わせのパターンを理解する～
- ⑤ M & Aの交渉の流れ～マッチング・トップ面談から基本合意、監査、最終契約の流れの理解～
- ⑥ 買収監査～会計、税務、法務、労務面から見た企業調査の概要～
- ⑦ 企業価値評価～企業の株価を決めるためのアプローチ法を学ぶ～
- ⑧ 株式譲渡契約の条項～M & Aに必要な契約書の内容、表明保証など各条項を理解する～
- ⑨ 株式譲渡以外のスキーム～企業結合の種類や具体的内容を理解する～
- ⑩ PMI～M & Aの成否を分ける買収後の融合実務～
- ⑪ 業種別M & Ai～業界再編のケーススタディ
- ⑫ 業種別M & Aii～隣接業種のケーススタディ
- ⑬ 経営者としての意思決定～買い手編～
- ⑭ 経営者としての意思決定～売り手編～
- ⑮ 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 日常の授業への取り組み50%
- ② レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください
 (必要な学習時間の目安は、予習60分・復習60分程度です)

履修上の注意 /Remarks

- ① 簿記の理解が前提となります
- ② 財務分析・企業評価や戦略立案の演習を行いますので、ご自身が所属する企業の財務諸表(BS、PL、CS等)及び事業計画(中期経営計画等あれば)をご準備ください
- ③ 発表はPPを利用頂きます。プレゼンの練習を兼ねますので、企業のIR資料等ビジュアルに訴求力のあるものをいくつかピックアップしておいてください

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出来るだけ実践に近い講義内容にしますので、受講後すぐに使える場面を想定しながら講義に臨んでください

キーワード /Keywords

M & A、事業承継、業界再編、成長戦略、株式価値評価

フィナンシャル・インベストメント【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 1学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	フィナンシャル・インベストメントに関する専門知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	フィナンシャル・インベストメントに関する定性的・定量的分析能力を習得する。
	実務技能	○	フィナンシャル・インベストメントに関する実務的な技能を身につける。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	企業経営に関してフィナンシャル・インベストメントの観点から変革する力を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

フィナンシャル・インベストメント

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

さまざまな金融商品のリスク・リターン特性、証券市場の価格決定メカニズムを学んだうえで、ポートフォリオの運営やデリバティブの活用法などについて実例を交えながら学ぶ。具体的には、金融・証券市場、投資の基本概念、債券投資、株式投資、効率的市場と行動ファイナンス、現代ポートフォリオ理論、デリバティブなどについて、実例を通して学び、自ら分析できるようにする。そして、分析手法をケース・スタディに応用して、実践的な分析力を養い、適切な経営判断ができるようにする。

DPに基づく到達目標

《高度な専門的知識・技能》

投資の概念を理解し、投資分析ができるようになる。

《高い問題解決能力と表現力》

ポートフォリオ理論を理解し、証券データを使って分析できるようにする。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

デリバティブの仕組みと利用法を理解する。

教科書 /Textbooks

ブリーリー&マイヤーズ&アレン(著) 藤井真理子・国枝繁樹(監訳)(2014年)『コーポレート・ファイナンス(第10版) 上』、『同 下』 日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ボディ&マートン&クリートン(著) 大前恵一郎(訳)(2011年)『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン

○三井住友信託銀行マーケット事業(2020)『第7版 投資家のための金融マーケット予測ハンドブック』NHK出版

フィナンシャル・インベストメント 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション 【ファイナンス】
- ② 金融市場と金融資産
【市場】【債券】【株式】【派生商品】【機関投資家】
- ③ 投資の基本概念
【現在価値分析】【投資収益率】
- ④ 債券投資分析(1) 債券の評価
【最終利回り】【債券価格】【イールド・カーブ】
- ⑤ 債券投資分析(2) 債券のリスク
【デュレーション】【金利リスク】【信用リスク】
- ⑥ 株式投資分析(1) 普通株式の価値
【株価】【代表的指標】【配当割引モデル】【ゼロ成長モデル】【定率成長モデル】
- ⑦ 株式投資分析(2) 普通株式の価値
【利益と投資機会】
- ⑧ 効率的市場と行動ファイナンス(1)
【効率的市場】【アノマリー】【市場の効率性】
- ⑨ 効率的市場と行動ファイナンス(2)
【行動ファイナンス】【裁定取引】
- ⑩ ポートフォリオ理論(1) リスクとリターン
【収益率】【分散】【標準偏差】【分散投資のリスク軽減効果】
- ⑪ ポートフォリオ理論(2) CAPM(資本資産評価モデル)
【資本市場線】【効率的フロンティア】【証券市場線】
- ⑫ ポートフォリオ理論(3) ケース・スタディ
- ⑬ デリバティブ(1) オプション
【コール・オプション】【プット・オプション】【オプションの価値】
- ⑭ デリバティブ(2) オプションの価値評価
【二項モデル】【ブラック=ショールズ・モデル】
- ⑮ デリバティブ(3) リアル・オプション

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント
 課題の提出 70パーセント
 ※学生が授業に出席することは前提のため、欠席はマイナス評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本経済新聞を購読して、ファイナンスの知識を活かし自分の考えを持って批判的に読んでください。
 課題をすらすら解けるようになるまで復習してください。

履修上の注意 /Remarks

「ファイナンス」を履修しておくこと。
 「ファイナンス」で学んだ知識と分析能力はこの科目の前提となるので、復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国ビジネス【夜】

担当者名 迫 和男 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ 中国ビジネスに関連する専門的知識を身につける。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 中国ビジネスを事業の成長につなげる視点を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	○ 中国市場の特性やビジネス習慣を理解し、国際的にビジネスを推進できる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

中国ビジネス

授業の概要 /Course Description

GNPで米国に次ぐ世界第二位の地位を安定して確保している中国は世界経済にとって米国と共に最重要国の1つである。米国トランプ政権時代は敵対的な動向に終始していたが、バイデン新政権になり、政治はともかく経済においては協業の期待も持たれる。特に、世界的な課題であるグローバルサプライチェーン、気候変動問題、パンデミックへの対処では米中の協力は欠かせない。この授業では、ますます重要になる米中関係を中心に自身の実務での経験も踏まえ、グローバルビジネスの展開を議論していきたいと思う。

DPに基づく到達目標

< 高度な実務知識と問題発見、解決能力 >

中国ビジネスを中心に国際ビジネスの高度な知識を常にインプットし、問題を発見し、解決する能力を習得する。

教科書 /Textbooks

特に設定はしない。
必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事例に関する図書を授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション 【内容構成】 【進行法】
- 2 中国事業の歴史と展開【合併事業】 【ウオッシュレットの展開】
- 3 米国その他の海外事業の歴史と展開【ビジネスモデル】 【国際事業戦略】
- 4 国際事業組織論 【集権・分権】 【意思決定】
- 5 人材マネジメント 【人事の現地化】 【モチベーションシステム】
- 6 マーケティング 【デジタルマーケティング】 【差別化】 【ESG】 【SDGs】
- 7 販売戦略 【消費者心理】 【富裕層－中間層－貧困層】
- 8 サプライチェーン 1 【垂直統合】 【水平統合】
- 9 サプライチェーン 2 【バリューチェーン】 【DX】
- 10 事例研究1 【中国パートナー】
- 11 事例研究2 【米国パートナー】
- 12 プレーンストーミング 1 【4ルール、3ポイント】 【テーマ設定】
- 13 プレーンストーミング 2 【実践討議】 【課題評価】
- 14 危機管理 【知的財産】 【カントリーリスク】
- 15 まとめ 【総合討議】

中国ビジネス【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 授業への参加姿勢 (30%)
 2. 課題に対するレポート (40%)
 3. 授業中の課題に対する回答の考え方 (30%)
- 上記 1 ~ 3 を基に総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にプリントを配布するので事前学習として読み込んで来る事。
事後については課題に対するレポートの提出。

履修上の注意 /Remarks

中国ビジネスに関する知識の有無は前提としない。
グローバルビジネスの感覚を身に付けようとする意欲は必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国ビジネス、国際ビジネス、グローバル

医療マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 石井 義輝 / ISHII Yoshiteru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 医療マネジメントに関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 医療の現場における課題を適切に抽出し、分析する力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 医療の専門的知識に裏付けられた、高い倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとして、医療マネジメントに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

医療マネジメント

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

世界史上類を見ない速度で少子高齢化が進む日本において、高齢者の医療・介護について過去30年近くにわたり議論されてきた。しかし、第二次世界大戦後に構築された基本設計は、さまざまな歪みを抱えたまま現在にいたっており、2020年に全世界を襲った新型コロナウイルス感染症の蔓延で、こうした歪みが露呈することとなった。団塊世代のすべてが後期高齢者となる2025年、さらに団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年に向けて歪みをいかに解消していくかが重要であるが、一般市民はもちろんのこと、医療従事者においてさえわが国の医療・介護が抱えている課題を理解できていないといった現状が存在する。世代・地域・職種を超えて医療や介護のあり方について議論を進めるためには、まず基本となる知識を獲得する必要がある。

本講義においては、わが国の医療サービスの仕組み（医療従事者養成、医療保険制度、医療機関経営、医療者-患者関係など）について実務経験に基づいた講義を行い、医療機関・医療従事者と地域社会が良好な関係を構築するために必要な知識を習得し、これをもってより良い議論ができる基礎を構築することを目標とする。

DPに基づく到達目標

<高度な専門的知識・技能>

社会保障システムとしての医療について理解を深め、自らの課題として考えることができる

<高い問題解決能力と表現力>

医療について、各人の立場における課題を見だし、解決策を提示することができる

<高い倫理観に基づいた自律的行動力>

各人の立場に応じて、医療機関・従事者と地域社会との良好な関係構築に寄与することができる

教科書 /Textbooks

講義ごとにトピックに応じた資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

真野俊樹 編『はじめての医療経営論』有斐閣、2020年

島崎謙治『日本の医療 制度と政策』東京大学出版会、2020年

橋本英樹・泉田信行『医療経済学講義 補訂版』東京大学出版会、2016年

本間正明監修『医療と経済』大阪大学出版会、2016年

二木立『医療経済・政策学の探究』勁草書房、2018年

池上直己『日本の医療と介護 歴史と構造、そして改革の方向性』日本経済新聞出版社、2017年

大竹文雄・平井啓『医療現場の行動経済学』東洋経済新報社、2018年

その他、履修選択者のバックグラウンドや興味に応じて適宜紹介する。

医療マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のテーマに沿った講義とディスカッションを行っていく
 なお、①～⑩については、履修選択者の背景等に応じて順序を変更する場合がある。
 また、テーマによっては外部講師による講義に振り替える場合がある。

- ①導入 医療マネジメント概論
 「医療マネジメント」の意味するところ、講義全体の概観について解説する。
- ②日本の医療システムの歴史的概観
 さまざまな社会システムは過去からの積み重ねの結果であるため、日本の医療システムが特に近現代においてどの ように変化してきたのかについて解説する。
- ③国民医療費と診療報酬制度
 42兆円を超える国民医療費の内訳、その負担と給付の仕組み、さらに診療報酬制度について解説する。
- ④医療従事者育成の実態
 医療従事者、特にその中核を担う医師がどういった過程で育成されるのか、さらに他の医療従事者の育成過程について解説する。
- ⑤医療機関の組織・人材管理
 多くの専門職種から構成される医療機関（特に病院）における組織管理・人材管理の特殊性について解説する。
- ⑥医療機関の経営戦略
 各医療機関、そして地域としてどのように医療を守り支えていくかについて解説する。
- ⑦医療機関の財務管理
 個々の医療機関ベースの財務管理（費用管理と資金調達）の現状と将来に向けた課題について解説する。
- ⑧医療マーケティング
- ⑨広報とブランディング
 患者のみならず地域住民、さらには勤務する医療従事者に向けた望ましいマーケティング活動とこれを支える広報活動について解説する。
 （外部講師による講義の予定）
- ⑩医療者-患者関係
 行動経済学の観点から、両者の関係をより良いものにするためにはどういったことが必要かについて解説する。
- ⑪医療と介護の連携
 今後の社会構成を考えた場合、医療と介護は不可分であることから、介護保険制度の概観および医療との連携について解説する。
- ⑫日本の医療、国際的な評価
 国民の満足度は決して高くない日本の医療であるが、諸外国との比較においてどういった現状なのかについて解説する。
- ⑬医療の将来
 ロボットやAI、再生医療といった新規技術の可能性、人口減少社会における医療のあり方について解説する。
- ⑭総合討論1（課題レポート発表）
- ⑮総合討論2（課題レポート発表）
 各人の作成したレポートを発表、互いの問題意識を共有する。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート70%、講義への貢献度（出欠、講義中の発現回数と内容）30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テーマに応じて読んで欲しい文献、書籍等を適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

医療に関する新聞記事やニュース（政策、新技術・サービス、新製品）に敏感になること
 厚生労働省はじめ、関連するサイトで情報収集すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療サービス自体を実践するのはそれぞれの専門職種ですが、これをより良いものとするためには、サービスの受益者である患者・利用者とそのご家族、さらには地域社会をも含めた協働作業になることが必要です。つまり、医療のマネジメントというものについて、すべてのひとひとが考えていく必要があると考えます。患者になってからではなく、患者になる前から医療について考え、望ましい医療との関係を構築することが、これからの地域医療を変えていく第一歩になると考えます。より実りあるディスカッションができるよう、医療関連業種のみならず、幅広いバックグラウンドを持つ学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

医療経営、医療経済、社会保障、地域医療

福祉マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 桑園 英俊 / Hidetoshi Kuwazono / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	福祉マネジメントに関連する専門的知識とマネジメントツールを習得する。
技能	分析解決技能	○	福祉の現場における課題を適切に抽出し、分析する力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	福祉の専門的知識に裏付けられた、高い倫理観を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとして福祉マネジメントに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

福祉マネジメント

授業の概要 /Course Description

ひとり一人の多様なニーズに応え、より良く安心して暮らせる社会を実現するためには、社会資源や既存の福祉事業、新たに創出するサービスのマネジメントが必要です。

この講義では、障害福祉・障害児教育に関する具体的実践事例から福祉マネジメントに必要な「自立」や「障害」の捉え方、起業や経営に必要な視点を学びます。

各講義では、実践事例を基に課題を設定しディスカッションを中心に進めます。

社会福祉法人、非営利企業のそれぞれの特性を活かした経営と営利企業を含めたネットワーク構築に可能性を見出し、ひとり一人が安心して暮らすことのできる多様性を尊重した共生社会実現の手がかりを得ることを本講義で目指します。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

社会福祉事業経営・管理について、事例を通して専門性を深め現場で応用と実践できる

< 高い問題解決能力と表現力 >

福祉現場での提示課題から解決能力を学び、当事者及び支援環境への表現、説明能力を高める

< 高い倫理観に基づいた自立的行動力 >

社会福祉事業マネジメントに必要な倫理観を講義を通して学び、現場での行動にフィードバックさせる

教科書 /Textbooks

指定教科書はありません。

各回でレジュメ、ワークシート、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 杉山登志郎著『発達障害の豊かな世界』日本評論社
- ・ 門田光司・桑園英俊・柳沢亨・箱崎孝二著『地域生活支援ガイド』中央法規
- ・ 『2018年版発達障害白書』赤石書店
- ・ 社会福祉士施設経営管理論2020 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

福祉マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

① イントロダクション	【相互自己紹介・講義の概要と進め方の説明】
② 「障害」と「自立」の捉え方	【ICFの視点を基に「障害」と社会の関係、「自立」の捉え方】
③ 発達障害の特性と支援	【発達障害の理解と支援の在り方】
④ 障害のある子どもの進路選択	【特別支援学級・特別支援学校の指導内容及び進路選択】
⑤ 社会福祉法人の設立と組織	【法人設立に必要なこと・法人組織】
⑥ 社会福祉法人経営に求められること	【資金収支・法人経営・障害事業所経営】
⑦ 社会福祉事業の創造と継承	【事業・当事者の仕事の創造・仕事の継承】
⑧ ネットワークの構築	【ネットワーク構築の視点と手法】
⑨ NPO法人の設立と組織	【NPO法人北九州小規模連の事例を基に】
⑩ NPO法人補助事業の運営	【障害者の店と共同受注システム】
⑪ 地域ニーズを基にした連携	【社会福祉法人と地域の連携の視点と手法】
⑫ 障害者雇用の現状と展開例	【事例を基に雇用を推進する視点と手法】
⑬ 社会福祉事業職員の雇用と育成	【社会福祉事業の求人、雇用、育成】
⑭ 社会福祉法人の事業継承	【事業継承に必要な視点と組織】
⑮ 地域社会における共生を目指して	【障害者が地域で暮らしやすい社会とは】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・討議の内容 (30%)	✧ 理解度・分かりやすさ・説得力・リーダーシップ・議論への貢献 等
授業への取り組み (30%)	✧ 積極性・発言の頻度・内容 等
レポート (40%)	✧ 視点・分析・発想・提案内容の妥当性 等

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義資料を「BS-MOODLE」に予めアップしますので、参照し、疑問点などを整理した上で講義に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

受講生の経歴やニーズ、人数構成によって、授業内容や進め方を変更する場合があります。
 イントロダクションで、この講義で学びたいことを積極的に発表して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉法人、NPO法人の設立から経営、事業展開の事例及び特別支援学校での実践事例が講義の中核です。
 法人創業、福祉事業起業を目指している方、関心のある方の受講を期待しています。
 受講生とディスカッションで深めたいことに、福祉事業と営利企業のネットワークの構築があります。
 そのディスカッションを通して、共生社会のイメージを膨らませたいと考えています。

キーワード /Keywords

当事者、障害特性、発達障害、経営、福祉制度、社会福祉法人、NPO法人、特別支援教育、障害者雇用、共生社会

自治体政策【夜】

担当者名 /Instructor 幕 亮二 / Ryoji Maku / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 自治体政策に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	○ 自治体政策に関連する政策ツールを理解し、活用方法を習得する。
技能	分析解決技能	○ 地域の課題を適切に把握し、解決に向けた分析を行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	△ 新たな政策やプロジェクトを企画する力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 自治体政策の専門的知識を活用して、地域の諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

自治体政策

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

確実な将来である超高齢化社会が、他国に先駆け急速なスピードで訪れる我が国は、「課題先進国」とも呼ばれていますが、地域が抱える課題は共通する部分も多いですが、基本的には千差万別です。よって、人口減少（オース）時の地域政策は、国や自治体任せでなく、住民や企業が生活や活動の場である地域とどのように関わり続け得るか、持続可能な仕組み（スキーム）と課題解決の処方箋（施策・事業等）について、各地域で議論を尽くし合意形成することが重要です。

本講では、予期し共有することが可能な確実な将来予測と影響をベンチマークとして、コントロールし得るリスクを如何に（誰が・どのように）マネジメントすることが適切か、生活（いとなみ）と事業（なりわい）の「現場」である「地域」が抱える課題と解決策について、講師と受講者を含めた講座全員でのディスカッションを通じ学びます。

DPに基づく到達目標

《高度な専門的知識・技能》

地域政策に係る課題と取り組みについて、概念や用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

地域政策の今後の方向性について、自ら問題意識持ちディスカッションできる表現力を身に付ける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

持続可能な地域経営のために必要な施策や取り組みを理解し、事業やNPO等自らの活動に活かすことができる。

教科書 /Textbooks

授業毎にレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

次回講義のディスカッション・テーマに関する参考書やURLを、授業各回終了後にリストで配布します。

ディスカッションの基本である、多面的な視点・意見の尊重を学ぶ参考書としては、下記両著ご参照ください。

「地方消滅 東京一極集中が招く人口急減」増田寛也編著,中公新書

「地方消滅の罫「増田レポート」と人口減少社会の正体」山下祐介著,ちくま新書

自治体政策【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ガイダンス（講義の全体構成・進め方の説明）
都市と地域形成の歴史的背景と地域政策の変遷を振り返り、地域政策の全体体系を学びます。
【都市と地域】【我が国における国土・地域政策の変遷】【地方創生】
- ②サステナビリティ（持続可能性）
中長期的に確実に訪れる未来（超高齢化社会、気候変動等）が、地域にもたらす影響（財政、担い手、環境、安全安心）を整理し、政策課題と地域政策を考える際の枠組みを学びます。
【2025年問題 / 2040年問題】【コンパクトシティ】【インフラメンテナンス】
- ③ディスカッション1（サステナビリティ（持続可能性））
不確実な未来（グローバル化・技術革新等）が、地域にもたらす影響と政策課題について考えます。
【ダイバーシティ】【IoT（Internet of Things）】【AI（Artificial Intelligence）】
- ④アカウンタビリティ（説明責任）
行政評価・事業評価におけるPDCAの手続きとその導入・発展過程について学びます。
【事前・事後評価】【NPM（New Public Management）】【パブリックインボルブメント】
- ⑤ディスカッション2（アカウンタビリティ（説明責任））
将来にわたって持続可能な地域経営を行うに当たり、世代間負担に関する説明責任と合意形成をどのように進めていくべきかについて考えます。
【政策形成過程】【多世代交流】【温暖化対策】
- ⑥クリエイティビティ（稼ぐ力）
RESASデータや地域間産業連関表の概念と活用方法、基盤産業の定義や地域の産業構造の把握方法について学びます。
【基盤産業と非基盤産業】【特化係数】【産業構造】
- ⑦ディスカッション3（クリエイティビティ（稼ぐ力））
統計データを実際に扱い、時系列・他地域との比較を行い、地域の産業構造の変遷と企業誘致等産業立地政策の効果等について考えます。
【生産性と雇用創出（吸収）力】【純移輸出】【企業城下町と産業クラスター】
- ⑧PPP / PFI（官民連携）
導入の背景と適用範囲の拡大（コンセッション等）について、海外及び我が国の動向について学びます。
【VFM（Value for Money）】【改正PFI法】【コンセッション】
- ⑨ディスカッション4（PPP / PFI（官民連携））
主な失敗事例をケースに、官民双方のリスクと今後の方向性について考えます。
【空港民営化】【PPPプラットフォーム】
- ⑩コミュニティ（まちづくり・ひとづくり）
多世代交流と共助を促進するための、組織や拠点のあり方に関する論点を整理します。
【生涯活躍の街 / CCRC（Continuing Care Retirement Community）】【地域福祉】
- ⑪ディスカッション5（コミュニティ（まちづくり・ひとづくり））
地域活動の担い手を育成し、持続可能なコミュニティの再生を図るための、直接・間接的な施策について考えます。
【多世代包括支援】【CSO（市民社会組織：Civil Society Organization）】
- ⑫モビリティ（移動・交通の自由と安全・安心）
人口減少・高齢化の進展に対応した、安全・安心な地域づくりを目指すコンパクトシティと公共交通再生に関する論点・施策を整理します。
【規制緩和】【コンパクトシティ】【Maas（Mobility As A Service）】
- ⑬ディスカッション6（モビリティ（移動・交通の自由と安全・安心））
高齢社会における移動権及び安全の確保に資する、まちづくりや地域福祉等他の政策との連携や相乗効果について考えます。
【交通政策基本法】【移動支援サービス】【自動運転】
- ⑭ブランドエクイティ（地域の誇りを資産にするマーケティング）
シニアプロモーションや観光地域振興、ふるさと納税を契機とする特産品開発等の取り組みについて整理します。
【DMO（Destination Management Organization）】【ふるさと納税】
- ⑮ディスカッション7（ブランドエクイティ（地域の誇りを資産にするマーケティング））
地域ブランドを持続可能な地域づくりに活かすための施策について考えます。
【地域ブランド】【郷土愛の醸成】【生涯学習】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のディスカッションへの貢献度（50%）と、全7回のディスカッションに関するレポート（50%）をもとに、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業各回終了後、次回講義のディスカッション・テーマに関して、参考書やURL等のリストを配布しますので、参照・予習して講義に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

隔週2コマ講義ですので、前半を座学講義、後半は特定テーマに関して、出席受講者全員によるディスカッションを、講師がファシリテーターになり行います。受講者の積極的な参加を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディスカッションで大切な技術は、「聞く・聞き出す」力です。議論を通じて、相手だけでなく自分の意見や考え方を自問していく過程を楽しみましょう。

キーワード /Keywords

持続可能社会 地域経営 合意形成 官民連携

モノづくり競争力の強化【夜】

担当者名 /Instructor 緒方 光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 生産や製造に関するマネジメントに必要な専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 生産や製造に関する問題点を適切に把握する能力を身につける。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 生産や製造に関する問題点を解決し、変革の道筋を提示する能力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

モノづくり競争力の強化

授業の概要 /Course Description

100年に1度といわれる、自動車業界の大変革に当たって、トヨタのモノづくりの根底を支えてきた「トヨタ生産方式」であるが、そのカイゼン活動から生まれる数多くのシーズを、その組織内だけでなく、変革する市場を睨み、スタートアップやベンチャーに繋げる。効率化と成長を同時に成立させる、真の自工程完結を計るべく、「新(進)トヨタ生産方式」を解説し、同時に具体的な問題解決能力の向上を目指す。また後半では、「ボードゲームのカイゼン&創作」を例題に取り上げて、アクティブラーニングによるチームでのワーク形式を採用し、より実践的な課題解決&創造性を身につける。

DPに基づく到達を目標

〈高度な専門知識・技能〉

QCやSQCに関する理論を理解し、現場で実践できる。

〈高い問題解決能力と表現力〉

自らの組織の課題を発見し、周囲を巻き込み、主体的に課題の解決が計れる。

〈高い倫理観に基づいた自律的行動力〉

自らの判断/行動の結果を真摯に捉え、成否の根本を熟慮して、次なる課題解決に生かす。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

① 雨澤政材(あめざわまさもと)著 「トヨタで学んだ工場運営」 日刊工業新聞社2014年 ¥2200+税

② トム・ビエルネック著 「ボードゲーム デザイナー ガイドブック」 スモール出版2018年 ¥2200+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① トヨタ生産方式概論【生まれた背景、特徴、基本的手法、進化するトヨタ生産方式、カイゼンからスタートアップ】
- ② マーケティングから企画/開発~製造/販売まで【車の開発及び生産・販売手法】
- ③ KAIZEN活動【実例を挙げてそのポイントを解説】
- ④ KAIZENを支えるSQC(統計的品質管理)【TQMの中のSQCの役割】【基本統計量:統計学の基礎】
- ⑤ 公差累積法と工程能力/管理図【アッセンブリ(組立)時の公差見積り法と工程が成立しているかの見極め等】
- ⑥ 検定・推定【u検定・t検定・ χ^2 検定・F検定 他】
- ⑦ 配置実験【分散分析・1元配置法・2元配置法 他】
- ⑧ 中間の小テスト実施&解答/解説【トヨタ生産方式&TQM&SQCの理解の定着を目的】
- ⑨ ボードゲームKAIZEN演習(1)【準備:グループ分け・既存ゲームのルール習得 等】
- ⑩ ボードゲームKAIZEN演習(2)【企画:評価:カイゼン点の抽出・ルール改良 等】
- ⑪ ボードゲームKAIZEN演習(3)【まとめ:改良版ゲームの実施及び結果確認】
- ⑫ ボードゲーム創作演習(1)【準備:チームディスカッション】
- ⑬ ボードゲーム創作演習(2)【企画:ストーリー作成と分担・細部デザイン・全体整合性】
- ⑭ ボードゲーム創作演習(3)【製作・実施】
- ⑮ ボードゲーム創作演習(4)【評価・まとめ:ルールブック作成】

モノづくり競争力の強化 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト：30%（個人評価）
授業への取組：20%（個人評価）
創作ボードゲームのルールを作成し、ルールブック（A4で2枚程度）を提出（チーム評価）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲での予習を、参考書等を使って実施し、また授業内容の復習を行うこと。
（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。）

履修上の注意 /Remarks

講義の前半には、統計学の基礎が理解できていることが必要な部分が多くてできます。数学が苦手な方は、事前に、ある程度勉強しておくことを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

後半からの授業は、アクティブラーニングとなっております。受講生間の積極的なディスカッション、リーダーシップ&フォロアーシップの発揮等の主体的学びを期待します。

キーワード /Keywords

トヨタ生産方式、TQM（総合的品質管理）、SQC（統計的品質管理）、KAIZEN(カイゼン)、スタートアップ、ベンチャー

ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ ソーシャルビジネスに関連する専門的かつ実践的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ ソーシャルビジネス分野での新規事業構想力を身につける。
態度	倫理観態度	○ 社会問題に関する意識を高め、社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域やコミュニティの視点からソーシャルビジネスを構想する力を修得する。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ソーシャル・ビジネス

授業の概要 /Course Description

近年、社会的課題をビジネスのスキームを用いて解決しようとする「ソーシャルビジネス」への期待が高まっている。本講義では、ソーシャルビジネスのマネジメントについて学ぶ。具体的には、解決すべき社会的課題の設定からビジネスモデルの作成までを事例やケース分析などを通じて学習する。講義では、実際にソーシャルビジネスを立ち上げ運営していくことを想定したディスカッションやワークショップを中心に進める。各自の問題意識や関心に沿ってソーシャルビジネスプランを策定することが、本授業のゴールである。

DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

ソーシャルビジネスに関連する概念や用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

自らの問題意識に基づき社会課題を抽出し、その解決策=ビジネスモデルを構築できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

ソーシャルビジネスモデルを実現するための手順を組み立てることができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒崎弘樹 『「社会を変える」を仕事にする』ちくま文庫、2011年。
- 小暮真久 『「20円」で世界をつなぐ仕事』日本能率協会マネジメントセンター、2009年。
- 上阪徹 『「カタリバ」という授業』英治出版、2010年。

その他の文献については、講義のなかで紹介する。

ソーシャル・ビジネス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【本講義のねらいと進め方の説明、ソーシャルビジネスとは何か？】
- ② ソーシャルビジネスの事例から学ぶ 1
【事例分析を通じソーシャルビジネスの活動領域や特色について検討する】
- ③ ソーシャルビジネスの事例から学ぶ 2
【成功したソーシャルビジネスの共通点を探る】
- ④ ミッションをつくる 1 (ケースメソッド)
【社会的課題の抽出と発見の手法】
- ⑤ ミッションをつくる 2 (ケースメソッド)
【社会的課題を解決するスキーム】
- ⑥ 事業をつくる 1 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスの事業構造】
- ⑦ 事業をつくる 2 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスにおけるビジネスモデルの特徴】
- ⑧ ソーシャルビジネスの現場から考える 1
【ゲストスピーカー講義】
- ⑨ ソーシャルビジネスの現場から考える 2
【ゲストスピーカー講義】
- ⑩ 中間発表とふりかえり 1
【解決すべき社会課題の設定とミッションの策定】
- ⑪ 中間発表とふりかえり 2
【ミッションを実現するための戦略と事業】
- ⑫ チームをつくる 1 (ケースメソッド)
【社内チームと社外協力者をいかにつくるか】
- ⑬ チームをつくる 2 (ケースメソッド)
【顧客を協力者に変換し、ソーシャルイノベーションを創出する方法】
- ⑭ ソーシャルビジネスプラン・プレゼンテーション 1
【プレゼンテーションとディスカッション】
- ⑮ ソーシャルビジネスプラン・プレゼンテーション 2
【プレゼンテーションとディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度（発言回数、発表内容、建設的な対話など）：60%、課題の内容（レポートなど）：40%により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回事前課題を課すので、次回に授業までに準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、社会課題、NPO、社会的インパクト

医療経済【夜】

担当者名 石井 義輝 / ISHII Yoshiteru / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	医療経済に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	○	現場に則したチームマネジメント技法を修得する。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとして医療経済に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

医療経済

授業の概要 /Course Description

世界史上類を見ない速度で少子高齢化が進む日本において、高齢者の医療・介護について過去30年近くにわたり議論されてきた。しかし、第二次世界大戦後に構築された基本設計は、さまざまな歪みを抱えたまま現在にいたっており、2020年に全世界を襲った新型コロナウイルス感染症の蔓延で、こうした歪みが露呈することとなった。団塊世代のすべてが後期高齢者となる2025年、さらに団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年に向けて歪みをいかに解消していくかが重要であるが、一般市民はもちろんのこと、医療従事者においてさえわが国の医療・介護が抱えている課題を理解できていないといった現状が存在する。世代・地域・職種を超えて医療や介護のあり方について議論を進めるためには、まず基本となる知識を獲得する必要がある。

本講義においては、わが国の医療サービスの仕組み（医療従事者養成、医療保険制度、医療機関経営、医療者-患者関係など）について実務経験に基づいた講義を行い、医療機関・医療従事者と地域社会が良好な関係を構築するために必要な知識を習得し、これをもってより良い議論ができる基礎を構築することを目標とする。

DPに基づく到達目標

<高度な専門的知識・技能>

社会保障システムとしての医療について理解を深め、自らの課題として考えることができる

<高い問題解決能力と表現力>

医療について、各人の立場における課題を見だし、解決策を提示することができる

<高い倫理観に基づいた自律的行動力>

各人の立場に応じて、医療機関・従事者と地域社会との良好な関係構築に寄与することができる

教科書 /Textbooks

講義ごとにトピックに応じた資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

真野俊樹 編『はじめての医療経営論』有斐閣、2020年

島崎謙治『日本の医療 制度と政策』東京大学出版会、2020年

橋本英樹・泉田信行『医療経済学講義 補訂版』東京大学出版会、2016年

本間正明監修『医療と経済』大阪大学出版会、2016年

二木立『医療経済・政策学の探究』勁草書房、2018年

池上直己『日本の医療と介護 歴史と構造、そして改革の方向性』日本経済新聞出版社、2017年

大竹文雄・平井啓『医療現場の行動経済学』東洋経済新報社、2018年

その他、履修選択者のバックグラウンドや興味に応じて適宜紹介する。

医療経済【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のテーマに沿った講義とディスカッションを行っていく
 なお、①～⑩については、履修選択者の背景等に応じて順序を変更する場合がある。
 また、テーマによっては外部講師による講義に振り替える場合がある。

- ①導入 医療マネジメント概論
 「医療マネジメント」の意味するところ、講義全体の概観について解説する。
- ②日本の医療システムの歴史的概観
 さまざまな社会システムは過去からの積み重ねの結果であるため、日本の医療システムが特に近現代においてどの ように変化してきたのかについて解説する。
- ③国民医療費と診療報酬制度
 42兆円を超える国民医療費の内訳、その負担と給付の仕組み、さらに診療報酬制度について解説する。
- ④医療従事者育成の実態
 医療従事者、特にその中核を担う医師がどういった過程で育成されるのか、さらに他の医療従事者の育成過程について解説する。
- ⑤医療機関の組織・人材管理
 多くの専門職種から構成される医療機関（特に病院）における組織管理・人材管理の特殊性について解説する。
- ⑥医療機関の経営戦略
 各医療機関、そして地域としてどのように医療を守り支えていくかについて解説する。
- ⑦医療機関の財務管理
 個々の医療機関ベースの財務管理（費用管理と資金調達）の現状と将来に向けた課題について解説する。
- ⑧医療マーケティング
- ⑨広報とブランディング
 患者のみならず地域住民、さらには勤務する医療従事者に向けた望ましいマーケティング活動とこれを支える広報活動について解説する。
 （外部講師による講義の予定）
- ⑩医療者-患者関係
 行動経済学の観点から、両者の関係をより良いものにするためにはどういったことが必要かについて解説する。
- ⑪医療と介護の連携
 今後の社会構成を考えた場合、医療と介護は不可分であることから、介護保険制度の概観および医療との連携について解説する。
- ⑫日本の医療、国際的な評価
 国民の満足度は決して高くない日本の医療であるが、諸外国との比較においてどういった現状なのかについて解説する。
- ⑬医療の将来
 ロボットやAI、再生医療といった新規技術の可能性、人口減少社会における医療のあり方について解説する。
- ⑭総合討論1（課題レポート発表）
- ⑮総合討論2（課題レポート発表）
 各人の作成したレポートを発表、互いの問題意識を共有する。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート70%、講義への貢献度（出欠、講義中の発現回数と内容）30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テーマに応じて読んで欲しい文献、書籍等を適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

医療に関する新聞記事やニュース（政策、新技術・サービス、新製品）に敏感になること
 厚生労働省はじめ、関連するサイトで情報収集すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療サービス自体を実践するのはそれぞれの専門職種ですが、これをより良いものとするためには、サービスの受益者である患者・利用者とそのご家族、さらには地域社会をも含めた協働作業になることが必要です。つまり、医療のマネジメントというものについて、すべてのひとひとが考えていく必要があると考えます。患者になってからではなく、患者になる前から医療について考え、望ましい医療との関係を構築することが、これからの地域医療を変えていく第一歩になると考えます。より実りあるディスカッションができるよう、医療関連業種のみならず、幅広いバックグラウンドを持つ学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

医療経営、医療経済、社会保障、地域医療

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 社会保障に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとして社会保障に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協同態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

社会保障

授業の概要 /Course Description

社会福祉から公衆衛生までの幅広い領域にわたる社会保障の制度や仕組みは、社会通念や人口構造、経済成長、グローバル化、生活環境、格差などの文化的、社会的、政治経済的な状況によって形づくられ、変化していきます。人間や社会とは何かという根源的な問いを原点に社会保障の概念を整理し、制度についての理解を深めるとともに、社会保障に関する事業やリスクのマネジメント、地域包括ケアなど、社会保障をより良く運営する方法について考えていきます。また、超少子高齢・人口減少社会の到来は、社会保障制度に影響を及ぼすだけでなく、産業社会の在り方を変え、企業の経営環境を激変させています。本講座では、人口構造や産業構造と社会保障制度、さらには企業経営との相関について総合的に考察することも視野に入れていきます。

DPに基づく到達目標

《高度な専門知識・技能》

社会保障に関連する概念や用語、制度の背景や成り立ち、本質を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

問題の発見と課題の適切な設定ができ、その解決に向けた制度やシステム、ビジネスモデルを設計・構築できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

設計・構築した制度やシステム、ビジネスモデルを、社会正義や公正の概念に基づき現実的なプロセスで実践できる。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 椋野美智子、田中耕太郎著『はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ—』有斐閣アルマ
- ・ 香取照幸『教養としての社会保障』東洋経済新報社
- ・ 広井良典著『定常型社会 新しい「豊かさ」の構想』岩波新書
- ・ 広井良典著『日本の社会保障』岩波新書
- ・ J・K・ガルブレイス『ゆたかな社会』岩波現代文庫
- ・ 立川昭二著『病気の社会史』岩波現代文庫

社会保障【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

① 社会保障の概念と歴史	【社会保障、ヒト、社会とは何か】
② 社会保障制度の基礎知識	【現行制度や法令の体系と専門用語、事業主体、財政】
③ 社会保障制度改革の概要と課題	【社会福祉基礎構造改革、社会保障と税の一体改革】
④ 社会保障と地域づくり	【地域包括ケアの概念と実践】
⑤ グループ討議	【福祉事業と専門職倫理、地域づくり】
⑥ 社会福祉制度の概要(1)	【格差社会、生活困窮者支援、公的扶助】
⑦ 社会福祉制度の概要(2)	【社会福祉制度(障害者、高齢者、児童、社会手当)、年金】
⑧ 介護保険制度とサービス提供体制	【介護保険事業計画、サービス提供主体】
⑨ 介護事業とマネジメント	【ゲストスピーカー：事業経営とリスクマネジメントの実際】
⑩ 医療保険制度と医療提供体制	【皆保険とフリーアクセス、医療計画】
⑪ 医療とマネジメント	【ゲストスピーカー：事業経営とリスクマネジメントの実際】
⑫ 公衆衛生の概要	【感染症・疾病対策、精神保健と地域づくり】
⑬ グループ討議	【社会的課題と新事業の構築】
⑭ 社会保障の現状と展望(1)	【小論文提出、プレゼン、討論】
⑮ 社会保障の現状と展望(2)	【小論文提出、プレゼン、討論】

成績評価の方法 /Assessment Method

講師と受講生の議論をもとに進め、課題に対する小論文の提出やプレゼンテーションを求めます。
 日常の授業への取り組み・・・25% 期末小論文の提出及びプレゼンテーション(1回)・・・75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講座資料を「MOODLE」に予めアップしておきますので、参照し、疑問点などを整理したうえで授業に臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

制度論を起点に、時事問題や事例などについて討議します。社会学、法学、経済学、財政学、経営学などの初歩的な知識があれば理解が深まりますが、日々の新聞を読み、自ら考える姿勢や知見があれば十分に履修できる内容です。
 1年後期の「医療マネジメント」、2年前期の「福祉マネジメント」、2年後期の「医療・福祉・教育の現場」に接続する内容ですので、当該講座によってさらに学びを深めていただくことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障を考える上では、社会的公正や社会的正義の実現だけでなく、財政問題とのトレードオフや企業経営との関係など、複合的な問題の解決に向けた多様な視点が必要です。
 部分最適ではなく全体最適による社会経済の安定化にはどのような取り組みが必要なのかを考えていきます。

キーワード /Keywords

社会保障制度の枠組みと実務、企業経営と社会保障、社会福祉、社会保険、超少子高齢・人口減少社会、地域づくり・地域包括ケア

自治体政策【夜】

担当者名 /Instructor 幕 亮二 / Ryoji Maku / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 自治体のさまざまな課題を解決するための実践的な政策提案能力を習得する。
技能	分析解決技能	○ 課題を解決するための分析や政策立案など多角的なアプローチ手法を習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	△ 新たな地域課題に対して、マネジメント手法などを活用してチャレンジできる。
態度	倫理観態度	○ 地域を支え、リードする役割を自覚して、高度な公務倫理を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

自治体経営

授業の概要 /Course Description

確実な将来である超高齢化社会が、他国に先駆け急速なスピードで訪れる我が国は、「課題先進国」とも呼ばれていますが、地域が抱える課題は共通する部分も多いですが、基本的には千差万別です。よって、人口減少（オーナス）時の地域政策は、国や自治体任せでなく、住民や企業が生活や活動の場である地域とどのように関わり続け得るか、持続可能な仕組み（スキーム）と課題解決の処方箋（施策・事業等）について、各地域で議論を尽くし合意形成することが重要です。

本講では、予期し共有することが可能な確実な将来予測と影響をベンチマークとして、コントロールし得るリスクを如何に（誰が・どのように）マネジメントすることが適切か、生活（いとなみ）と事業（なりわい）の「現場」である「地域」が抱える課題と解決策について、講師と受講者を含めた講座全員でのディスカッションを通じ学びます。

DPに基づく到達目標

《高度な専門的知識・技能》

地域政策に係る課題と取り組みについて、概念や用語を理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

地域政策の今後の方向性について、自ら問題意識持ちディスカッションできる表現力を身に付ける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

持続可能な地域経営のために必要な施策や取り組みを理解し、事業やNPO等自らの活動に活かすことができる。

教科書 /Textbooks

授業毎にレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

次回講義のディスカッション・テーマに関する参考書やURLを、授業各回終了後にリストで配布します。

ディスカッションの基本である、多面的な視点・意見の尊重を学ぶ参考書としては、下記両著ご参照ください。

「地方消滅 東京一極集中が招く人口急減」増田寛也編著,中公新書

「地方消滅の罠「増田レポート」と人口減少社会の正体」山下祐介著,ちくま新書

自治体政策【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ガイダンス（講義の全体構成・進め方の説明）
都市と地域形成の歴史的背景と地域政策の変遷を振り返り、地域政策の全体体系を学びます。
【都市と地域】【我が国における国土・地域政策の変遷】【地方創生】
- ②サステナビリティ（持続可能性）
中長期的に確実に訪れる未来（超高齢化社会、気候変動等）が、地域にもたらす影響（財政、担い手、環境、安全安心）を整理し、政策課題と地域政策を考える際の枠組みを学びます。
【2025年問題 / 2040年問題】【コンパクトシティ】【インフラメンテナンス】
- ③ディスカッション1（サステナビリティ（持続可能性））
不確実な未来（グローバル化・技術革新等）が、地域にもたらす影響と政策課題について考えます。
【ダイバーシティ】【IoT（Internet of Things）】【AI（Artificial Intelligence）】
- ④アカウンタビリティ（説明責任）
行政評価・事業評価におけるPDCAの手続きとその導入・発展過程について学びます。
【事前・事後評価】【NPM（New Public Management）】【パブリックインボルブメント】
- ⑤ディスカッション2（アカウンタビリティ（説明責任））
将来にわたって持続可能な地域経営を行うに当たり、世代間負担に関する説明責任と合意形成をどのように進めていくべきかについて考えます。
【政策形成過程】【多世代交流】【温暖化対策】
- ⑥クリエイティビティ（稼ぐ力）
RESASデータや地域間産業連関表の概念と活用方法、基盤産業の定義や地域の産業構造の把握方法について学びます。
【基盤産業と非基盤産業】【特化係数】【産業構造】
- ⑦ディスカッション3（クリエイティビティ（稼ぐ力））
統計データを実際に扱い、時系列・他地域との比較を行い、地域の産業構造の変遷と企業誘致等産業立地政策の効果等について考えます。
【生産性と雇用創出（吸収）力】【純移輸出】【企業城下町と産業クラスター】
- ⑧PPP / PFI（官民連携）
導入の背景と適用範囲の拡大（コンセッション等）について、海外及び我が国の動向について学びます。
【VFM（Value for Money）】【改正PFI法】【コンセッション】
- ⑨ディスカッション4（PPP / PFI（官民連携））
主な失敗事例をケースに、官民双方のリスクと今後の方向性について考えます。
【空港民営化】【PPPプラットフォーム】
- ⑩コミュニティ（まちづくり・ひとづくり）
多世代交流と共助を促進するための、組織や拠点のあり方に関する論点を整理します。
【生涯活躍の街 / CCRC（Continuing Care Retirement Community）】【地域福祉】
- ⑪ディスカッション5（コミュニティ（まちづくり・ひとづくり））
地域活動の担い手を育成し、持続可能なコミュニティの再生を図るための、直接・間接的な施策について考えます。
【多世代包括支援】【CSO（市民社会組織：Civil Society Organization）】
- ⑫モビリティ（移動・交通の自由と安全・安心）
人口減少・高齢化の進展に対応した、安全・安心な地域づくりを目指すコンパクトシティと公共交通再生に関する論点・施策を整理します。
【規制緩和】【コンパクトシティ】【Maas（Mobility As A Service）】
- ⑬ディスカッション6（モビリティ（移動・交通の自由と安全・安心））
高齢社会における移動権及び安全の確保に資する、まちづくりや地域福祉等他の政策との連携や相乗効果について考えます。
【交通政策基本法】【移動支援サービス】【自動運転】
- ⑭ブランドエクイティ（地域の誇りを資産にするマーケティング）
シニアプロモーションや観光地域振興、ふるさと納税を契機とする特産品開発等の取り組みについて整理します。
【DMO（Destination Management Organization）】【ふるさと納税】
- ⑮ディスカッション7（ブランドエクイティ（地域の誇りを資産にするマーケティング））
地域ブランドを持続可能な地域づくりに活かすための施策について考えます。
【地域ブランド】【郷土愛の醸成】【生涯学習】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のディスカッションへの貢献度（50％）と、全7回のディスカッションに関するレポート（50％）をもとに、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業各回終了後、次回講義のディスカッション・テーマに関して、参考書やURL等のリストを配布しますので、参照・予習して講義に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

隔週2コマ講義ですので、前半を座学講義、後半は特定テーマに関して、出席受講者全員によるディスカッションを、講師がファシリテーターになり行います。受講者の積極的な参加を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディスカッションで大切な技術は、「聞く・聞き出す」力です。議論を通じて、相手だけでなく自分の意見や考え方を自問していく過程を楽しみましょう。

キーワード /Keywords

持続可能社会 地域経営 合意形成 官民連携

産学連携と事業創造 【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 事業創造に向けた産学連携にとって必要な実践的な知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ 事業創造に向けた産学連携のコラボレーションの仕組みを具体的に提案できる。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革を促す産学連携のコラボレーションの具体的な企画を提案できる。
	地域リーダー態度	○ 様々な地域の資源を生かした産学連携のスキームを提案できる。
	国際協調態度	
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		産学連携と事業創造

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

日本の高度経済成長を支えてきた様々な地域産業は、時代変化の中で大きく変容している。そのため、地域産業の担い手であった企業、とりわけ中堅・中小企業はその対応追われる状況は長く続いている。そこで、本講義では前半部分で地域産業の変容の実態を概観しながら、これからの新産業を展望し、企業としてやるべき経営革新とは何かを考察する。また、後半部分では事業創造の手段の1つである「産学連携」に焦点をあてて、産学連携による新事業創造の実際の事例を学びながら、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。

DPに基づく到達目標

- < 高度な専門知識・技能 >
- 地域産業の変容を適切に捉えて事業創造のアイデアを生み出すことができる
- < 高い問題解決能力と表現力 >
- 将来性があり現実的な産学連携プロジェクトのテーマを探索し、企画ができる
- < 高い倫理観に基づいた自立的行動力 >
- 有機的かつ実践的なチーム体制を提案できる

教科書 /Textbooks

適宜、資料やレポート等をプリントにて配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川淳 『経営とデザインの幸せな関係』 日経BP社
- 田中洋 『ブランド戦略全書』 有斐閣
- クレイトン・クリステンセン / ジェフリー・ダイアー / ハル・グレガーセン 『イノベーションのDNA』 翔泳社
- 玉田俊平 『日本のイノベーションのジレンマ』 翔泳社
- 伊丹浩敬之 『経営戦略の論理』 日本経済新聞出版社
- マイケル・E・ポーター 『競争戦略I』 『競争戦略II』 ダイヤモンド社

産学連携と事業創造 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①地域産業とは？
【地域における様々な産業の特徴とは：地域産業、地場産業、基盤産業、非基盤産業、クリエイティブ産業、立地戦略】
- ②、③地域産業と技術変革・時代転換
【サービス経済化が進む地域経済：鉄冷え、多角化、サービス産業、IT産業、シェアリングエコノミー】
【アフター・コロナの地域産業：小売業、観光業、伝統工芸産業】
- ④、⑤クラスターにおけるイノベーション可能性
【イノベーションとクラスター理論：破壊的イノベーション、持続的イノベーション、競争優位戦略、創新普及】
【クラスターマネジャーからの示唆：コラボレーション、チームワーク、研究会運営、リーダーシップ】
- ⑥、⑦中小企業による産学連携の落とし穴
【中小企業H社に係るケースによるディスカッション：人間関係、チームマネジメント、秘密保持契約、情報漏えい】
【中小企業H社から得る教訓とH社のその後：知財戦略、プロジェクトマネジメント、技術蓄積】
- ⑧、⑨産学連携プロジェクトのプロデュースのポイントと実例
【イノベーションのためのスキルと人材：ネットワーク力、関連づけ思考、技術者、質問力、観察力、産業政策】
【産学連携プロジェクト創出の実態：(仮称)植物工場プロジェクト、(仮称)アロマプロジェクト】
- ⑩、⑪産学連携の現実と可能性
【中堅企業A社に係るケースによるディスカッション：チームマネジメント、事業化、マーケティング、営業】
【地域事業創造のために：コラボレーション、マーケティング、ブランディング、立地戦略、関連付け思考】
- ⑫、⑬地域産業からの新たな事業創造の事例(ゲスト講師を招聘)
- ⑭、⑮地域に根差した産業の可能性と経営革新
【観光業の可能性：インバウンド、旅館、ホテル、飲食業、エンターテインメント、スポーツ、門司港レトロ、立地】
【工芸産業の可能性：デザイン、ブランディング、イノベーション、地場産業、産地活性化、小倉織、立地】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ケーススタディ2回に対する課題レポート(30%×2=60%)
- ブランディングに係る課題レポート(20%)
- その他の日常的なディスカッションに係る貢献度(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、ブランディングやイノベーションに対する基礎的な知識を習得・確認していることを期待しています。また、ポーターのクラスター論、クリステンセンのイノベーション論の習得をお勧めします。
事後学習については、講義に活用した資料や参考資料を活用して講義の確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地戦略、産業構造、サービス化、ブランディング、コラボレーション、イノベーション、技術革新、創新普及、産学連携、チームマネジメント、クラスター、ビジネスモデル、ブランディング

アジア型経営 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	アジア型経営の理解に必要な理論的専門知識を修得する。
	実践知識	○	アジアビジネス展開に当たって現地の異文化や制度に関する知識を習得する。
技能	分析解決技能	○	アジアビジネス展開に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその分析と解決策の提示ができる。
	実務技能		
	新規事業技能	△	アジア地域の特殊性を踏まえた新事業展開に必要とされる技能を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	アジアビジネス展開にあたって必要とされる挑戦的姿勢と変革する能力を修得する。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	アジアビジネス展開に必要とされる相互理解の態度と協調的姿勢を修得する。
			アジア型経営

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

1990年代以降、日本経済の対東アジア依存度が持続的に高まってきた。東アジア域内では特に市場としての中華地域（中国大陸、台湾、香港・マカオ、シンガポール）、ビジネスパートナーとしての中華系資本（中華地域の資本に、地域外の華僑・華人系資本を加えたもの）との結びつきが日増しに深まってきている。こうした現実を鑑み、本講義では日本企業の対東アジアビジネス展開に必要とされる現地系企業の経営様式（企業制度と経営システムの特徴、競争優位性など）に関する体系的な知識の取得と独自の見方の養成にウェイトをおいている。前半では中華系資本の行動様式（経営様式）の根底にある「伝統経営思想」の学習（代表的なものを取り上げ、その誕生の背景、中華社会構造に及ぼす影響、中華ビジネスにおける応用に対して理解を深めていく）にウェイトをおき、後半では本講義担当者がケース研究してきた企業事例を取り上げ、グループ討論方式を取り入れて「中華系ビジネス」を学んで行く。比較経営の視点から日本企業との比較、関係性を意識して進める考えである。

到達目標：

知識・理解 中華圏の経営の理解に必要な理論的な専門知識とともに、海外事業展開に当たって異文化や制度に関する知識を習得することができる。

技能 アジアビジネス展開に関わる諸問題、諸課題を自ら発見し、体系的に理解するとともに、その分析と解決策の提示ができ、地域の特殊性を踏まえた新事業展開に必要な技能も修得できる。

態度 アジアビジネス展開に必要とされる挑戦的な姿勢と変革する能力を修得するとともに、相互理解の態度と協調的姿勢を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

手作り資料を配布する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

デイヴィッド・ツエ & 古田茂美著 鈴木あかね訳 『グワンシー』 デイスクーパー
 王 効平、尹大栄、米山茂美著 『日中韓企業の経営比較』 税務経理協会
 王効平著 『華人系資本の企業経営』 日本経済評論社
 王効平編著 『日中長寿企業の経営比較』 中央経済社
 末廣昭著 『ファミリービジネス論』 名古屋大学出版会

アジア型経営【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：なぜ「中華圏」か
【儒教資本主義】【開発経済学】【新儒家】
- ② 特に儒教文化圏の財閥企業の位置づけ
【韓国系財閥】【中華系財閥（含華人系財閥）】【儒商】
- ③ 中華系企業の経営様式 1
【企業経営と文化】【企業統治構造】【事業継承】
- ④ 中華系企業の経営様式 2
【経営の内部特性】【戦略立案】【組織特性】【管理システム】
- ⑤ 中華圏の経営思想 1（儒教文化）
【孔孟思想】【論語】【マックス・ウェーバー】
- ⑥ 中華圏の経営思想 2（儒教文化の現代経営的応用）
【信用】【中庸】【協調】【関係（グアンシー）】
- ⑦ 中華圏の経営思想 3（老荘思想・法家思想）
【無為自然】【信賞必罰】【法と術】
- ⑧ 中華圏の経営思想 4（戦略論）
【孫子の兵法】【マイケルポーター】
- ⑨ 事例研究1 ASEANの華人系企業
【CPグループ】【コングロマリット化】
- ⑩ 事例研究 1 のグループ討論
日系企業との事業提携を踏まえて
- ⑪ 事例研究 2 台湾系企業
【EMS】【IOT】【SCM】
- ⑫ 事例研究 2 のグループ討論
日系企業との事業提携を踏まえて
- ⑬ ゲスト講義 1 アジアビジネス展開中の企業経営者
【提携】【WIN-WIN】【意思決定様式】
- ⑭ ゲストを囲む討論発表
- ⑮ まとめ 総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出状況・完成度 50%、討議参加の積極さ・寄与度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 必読資料を配布する
- 参考文献を各自入手して活用すること

履修上の注意 /Remarks

- ◇ 関係資料を学習支援フォルダーに事前アップの予定。
- ◇ 「国際経営」、「海外研修」など国際系科目の履修済みが望ましい
- ◇ 数回課題を課す予定

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ◇ 課題提出期限の厳守
- ◇ 積極的な発言、質疑を期待

キーワード /Keywords

NPO / NGO実践論 【夜】

担当者名 /Instructor 古賀 桃子 / Momoko Koga / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ NPO活動に関連する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ NPO活動を立ち上げ運営するために必要な力を身につける。
態度	倫理観態度	○ 社会的問題に関心を持ち、的確な課題を抽出できる力を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ NPO運営の視点から、地域における諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

NPO/NGO実践論

授業の概要 /Course Description

1995年の阪神淡路大震災が「ボランティア元年」となって以降、国内・外で課題解決に取り組むNPOをはじめとする非営利組織による活動が盛んとなっている。その要因として、少子高齢化や不況に伴い、行政や企業が担うサービスではフォローしきれない領域が広がっていること、近隣関係の希薄化や核家族化、未婚者の増加等により、ひとりひとりが抱える課題が多様化・内在化しがちであること等が挙げられる。そこで本科目では、さまざまなケーススタディを通じ非営利組織およびそれを取り巻く社会経済の動向とマネジメント上の諸課題を考察するとともに、プラン策定および営利・非営利を問わず不可欠なマネジメントスキルのブラッシュアップを図る。

DPに基づく到達目標

<姿勢>

マネジメントスキルの習得に終始するばかりでなく、その骨太となる自らのビジョンと取り組み姿勢を明確化できている。

<取り組み>

自他にとって有効な、具体的なアクションプランを策定できる。

<コミュニケーション>

自他にとって有効な、コミュニケーションスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

「NPOリーダーのための15の力 WORK BOOK」 (日本NPOセンター) ※非売品、講師より提供
<https://www.jnpoc.ne.jp/?p=5599>

「くらし×○○つなぎの手帖」 (日本NPOセンター・ふくおかNPOセンター) ※非売品、講師より提供
<http://www.npo-an.com/event/archives/72>

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

シリーズ「はじめて読むドラッカー」(プロフェッショナルの条件、チェンジ・リーダーの条件、テクノロジストの条件、イノベーターの条件 /ダイヤモンド社)
 ※講義時間中、文献研究はしない

NPO / NGO実践論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 : NPOマネジメント概論

※主なトピック

社会課題・地域課題の動向、非営利組織（NPO含む）および関連制度（法人制度、税制、関連施策）の概要、主要ステークホルダー（行政、企業など）の動向、我が国における非営利組織の意義・課題

2 : 各論 その1「NPOにおけるソーシャルビジネス」

講義：エリア不問型課題解決ビジネス（ソーシャル・ビジネス）の動向、意義と課題

※主なトピック

環境、子育て支援、福祉（高齢者、障害児・者、子ども）、公共交通など

3 : 各論 その1「NPOにおけるソーシャルビジネス」

①ディスカッション：講義について（質疑応答、論点の洗い出し、講評）

②スキルアップ演習：企画力（6W3H、目標設定）

4 : 各論 その2「NPOにおけるコミュニティビジネス」

講義：エリア特化型課題解決ビジネス（コミュニティ・ビジネス）の動向、意義と課題

※主なトピック

雇用、起業・小商い、防災、ダイバーシティ（特に女性の参画）、民設公共スペースなど

5 : 各論 その2「NPOにおけるコミュニティビジネス」

①ディスカッション：講義について（質疑応答、論点の洗い出し、講評）

②スキルアップ演習：資金力（財源の多様性、予算計画）

6 : 各論 その3「官民による支援策」

講義：官民による支援策の動向、意義と課題

※主なトピック

地方創生、資金調達市場（ベンチャーキャピタル、ESG）、クラウドファンディング、スタートアップ支援、SDGs関連施策など

7 : 各論 その3「官民による支援策」

①ディスカッション：講義について（質疑応答、論点の洗い出し、講評）

②スキルアップ演習：広報・コミュニケーション（広報のコツ）

8 : 各論 その4「持続可能なマネジメントのあり方」

講義：コロナ禍におけるNPOの実際（各種アンケート調査より）

※主なトピック

BCP（事業継続計画）、DX（デジタルトランスフォーメーション）、テレワーク・リモートワークなど

9 : 各論 その4「持続可能なマネジメントのあり方」

①ディスカッション：講義について（質疑応答、論点の洗い出し、講評）

②スキルアップ演習：広報・コミュニケーション（キャッチコピーのコツ）

10 : 各論 その5「持続可能なマネジメントのあり方」

講義：効果的な協働（コラボレーション、パートナーシップ）

※主なトピック

提案公募型協働事業を通じた行政との協働、CSV（共通価値の創造）としての企業との協働、マルチステークホルダーでの協働、役割分担、成果（アウトカム）など

11 : 各論 その5「持続可能なマネジメントのあり方」

①ディスカッション：講義について（質疑応答、論点の洗い出し、講評）

②スキルアップ演習：広報・コミュニケーション（プレゼンのコツ）

12 : 各論 その6「持続可能なマネジメントのあり方」

講義：人材と組織

※主なトピック

理事会、リーダーシップ・フォロワーシップ、世代交代、事業承継など

13 : 各論 その7「持続可能なマネジメントのあり方」

①ディスカッション：講義について（質疑応答、論点の洗い出し、講評）

②スキルアップ演習：広報・コミュニケーション（プレゼンのコツ）

14 : 総括 「理想的なマネジメントとは」

講義：これからの社会にベストマッチする組織・事業のあり方

15 : 総括 「理想的なNPOマネジメントのあり方とは」

①ワーク：プランニング（事業、予算、推進体制）

NPO / NGO実践論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

②プレゼン、講評

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の参画度：50%

課題達成度：50% (事前課題等)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の都度、事前課題を課す。
- ・ 授業の都度、終了時にコメントカードを課す。

履修上の注意 /Remarks

コロナ禍での実施となりますので、マスク・手指消毒等の感染症拡大防止対策を講じた上で受講してください。あわせて十分な飲料を持参の上、こまめな水分摂取を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生時分より二十数年来、NPO (中間支援) の活動をしている者です。本講義が、効果的な学びはもとより、受講生各位の今後の「ソーシャル」もしくは「コミュニティ」に係る人生設計についても熟考していただける機会ともなれば幸いです。

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、非営利、マネジメント、協働、CSR、CSV、持続可能性、社会課題解決

中華圏の経営思想【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	中華圏における経営思想について専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	中華圏における経営思想を理解し、グローバルビジネスに携わる上での倫理観を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	文化圏の違いを理解し、相互理解の上にビジネスを発展させていく態度を身につける。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中華圏の経営思想

授業の概要 /Course Description

1990年代以降、日本経済の対東アジア依存度が持続的に高まってきた。東アジア域内では特に市場としての中華地域（中国大陸、台湾、香港・マカオ、シンガポール）、ビジネスパートナーとしての中華系資本（中華地域の資本に、地域外の華僑・華人系資本を加えたもの）との結び付きが日増しに深まってきている。こうした現実に鑑み、本講義では日本企業の対東アジアビジネス展開に必要とされる現地系企業の経営様式（企業制度と経営システムの特徴、競争優位性など）に関する体系的な知識の取得と独自の見方の養成にウェイトをおいている。前半では中華系資本の行動様式（経営様式）の根底にある「伝統経営思想」の学習（代表的なものを取り上げ、その誕生の背景、中華社会構造に及ぼす影響、中華ビジネスにおける応用に対して理解を深めていく）にウェイトをおき、後半では本講義担当者がケース研究してきた企業事例を取り上げ、グループ討論方式を取り入れて「中華系ビジネス」を学んで行く。比較経営の視点から日本企業との比較、関係性を意識して進める考えである。

到達目標：

- 知識・理解 中華圏の経営の理解に必要な理論的な専門知識とともに、海外事業展開に当たって異文化や制度に関する知識を習得することができる。
- 技能 アジアビジネス展開に関わる諸問題、諸課題を自ら発見し、体系的に理解するとともに、その分析と解決策の提示ができ、地域の特殊性を踏まえた新事業展開に必要な技能も修得できる。
- 態度 アジアビジネス展開に必要とされる挑戦的な姿勢と変革する能力を修得するとともに、相互理解の態度と協調的姿勢を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

手作り資料を配布する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- デイヴィッド・ツェ&古田茂美著 鈴木あかね訳『グワンシー』ディスカバー
- 王 効平、尹大栄、米山茂美著 『日中韓企業の経営比較』 税務経理協会
- 王効平著 『華人系資本の企業経営』日本経済評論社
- 王効平編著『日中長寿企業の経営比較』中央経済社
- 末廣昭著 『ファミリービジネス論』名古屋大学出版会

中華圏の経営思想【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：なぜ「中華圏」か
【儒教資本主義】【開発経済学】【新儒家】
- ② 特に儒教文化圏の財閥企業の位置づけ
【韓国系財閥】【中華系財閥（含華人系財閥）】【儒商】
- ③ 中華系企業の経営様式 1
【企業経営と文化】【企業統治構造】【事業継承】
- ④ 中華系企業の経営様式 2
【経営の内部特性】【戦略立案】【組織特性】【管理システム】
- ⑤ 中華圏の経営思想 1（儒教文化）
【孔孟思想】【論語】【マックス・ウェーバー】
- ⑥ 中華圏の経営思想 2（儒教文化の現代経営的応用）
【信用】【中庸】【協調】【関係（guanxi）】
- ⑦ 中華圏の経営思想 3（老荘思想・法家思想）
【無為自然】【信賞必罰】【法と術】
- ⑧ 中華圏の経営思想 4（戦略論）
【孫子の兵法】【マイケルポーター】
- ⑨ 事例研究1 ASEANの華人系企業
【CPグループ】【コングロマリット化】
- ⑩ 事例研究 1 のグループ討論
日系企業との事業提携を踏まえて
- ⑪ 事例研究 2 台湾系企業
【EMS】【IOT】【SCM】
- ⑫ 事例研究 2 のグループ討論
日系企業との事業提携を踏まえて
- ⑬ ゲスト講義 1 アジアビジネス展開中の企業経営者
【提携】【WIN-WIN】【意思決定様式】
- ⑭ ゲストを囲む討論発表
- ⑮ まとめ 総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出状況・完成度 50%、討議参加の積極さ・寄与度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 必読資料を配布する
- 参考文献を各自入手して活用すること

履修上の注意 /Remarks

- ◇ 関係資料を学習支援フォルダーに事前アップの予定。
- ◇ 「国際経営」、「海外研修」など国際系科目の履修済みが望ましい
- ◇ 数回課題を課す予定

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ◇ 課題提出期限の厳守
- ◇ 積極的な発言、質疑を期待

キーワード /Keywords

中華圏の貿易実務【夜】

担当者名 /Instructor 増田 正美 / masuda masami / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	中華圏との貿易に関連する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能		
	実務技能	◎	中華圏との適切な貿易実務に携わることができる力を身につける。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	文化圏の違いを理解し、相互理解の上に貿易を推進していく態度を身につける。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

中華圏の貿易実務

授業の概要 /Course Description

アジア貿易実務授業ではRCEPに代表される現在進行の激変且つ目覚ましい台頭・大々の発展を成し遂げつつ有るアジア(中華圏)各国経済に基づく日本とアジア(中華圏)間の国際貿易輸出入ビジネス、ECビジネス等の活動業務を円滑・効果的に実行・実践の為に必ず必要な貿易実務能力を取得して頂く事を目的とします。貿易実務理論に基づき、貿易実務の具体的知識の蓄積、訓練、応用等を行い、具体的貿易実務技術取得を目指す為の講義を行います。詳細な貿易実務・貿易為替金融業務、輸出入通関手続き、港湾倉庫手続き、海外貿易保険、税関手続き等々多岐に亘る貿易実務知識・素養を高める事を目指します。

当アジア貿易実務授業・講義を通じ履修生皆様が、実践的アジア(中華圏)貿易実務を遂行可能な方向へと導き、其の能力向上を目的とします。

講義担当者の45年にわたる貿易取引体験を踏まえた多岐方面に亘る実際且つ詳細なケーススタディを講義に取入れ、グループ討論も組み入れて履修生の皆様の実践的且つ具体的アジア貿易実務取得を目指し講義を行います。

【DPに基づく到達目標】

< 高度な専門的知識・技能 >

アジア貿易実務の現実的且つ具体的詳細な知識を修得し実践の実務応用が可能なノウハウ技能を磨く事が出来る。

< 高い問題解決能力と表現力 >

アジア貿易実務実行・実践の際にほぼ間違い無く発生すると思われる商談交渉に於いて且つクレーム発生の際に於ける事前防御・ソリューションノウハウを理解し具現化する能力向上を目指す。

< 高い倫理観に基いた自律的行動力 >

アジア・中華圏と日本との貿易取引に於いての国際感覚を磨き、誠実・謙虚・真摯・客観に基づく執行及び行動が出来る。

教科書 /Textbooks

「改訂4版 貿易実務の基礎がわかる本」
著者：曾我しのぶ
発行所：株式会社 シーアンドアール研究所
書籍代：3,430円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で紹介致します。

中華圏の貿易実務【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インタロダクション・貿易の仕組み (貿易取引と日本国内取引との相違)
- ② 輸入貿易取引と輸出貿易取引 (各国マーケット及び国別の貿易体制の調査の必要性)
- ③ 輸出入取引の条件設定と取引価格算定の要点 (インコタームズ)
- ④ 輸入貨物物資の実務処理業務と輸出貨物の注意点 (輸出入通関面でのポイント)
- ⑤ 労働厚生省・検疫所、農林水産省・植物検疫所等々の行政面に於ける規制注意要点 (食品安全とポジティブリスト制度とはどのような情况等々の関係管理規制)
- ⑥ 財務省・税関の役割と機能とは、 (関税・消費税等処理と注意点)
- ⑦ 貿易取引金融の実務 (LC決済, D/P & D/A決済, T/T決済, 他外国為替)
- ⑧ 貿易貨物物流の実務 (物流手段の多様化)
- ⑨ 貿易形態の種類 (保税地区、加工貿易、三国間貿易、ECビジネス貿易等々)
- ⑩ 貿易取引上のクレーム発生と解決手段 (1) (各種クレームの実際の具体事例)
- ⑪ 貿易取引上のクレーム発生と解決手段 (2) (各種クレームの解決方法)
- ⑫ ガット以降のWTO機構設立とアジア貿易に於ける劇的發展と変化 (グローバル化)
- ⑬ FTA (自由貿易協定)、EPA (多国間経済連携協定)、RCEP, TPP11等に於けるアジア貿易。
(日本を含むアジア圏内の更なる発展と展望)
- ⑭ 東南アジア・EUと中国の一带一路及びAIIB (アジアに於ける日本と中国の関係諸国間の協力関係の変化と発展)
- ⑮ まとめと総論

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験レポート： 60%、 日常授業講義への貢献度 (発表内容・建設的対話等) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前の予習及び授業後の復習をされるように心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

常日頃より世界経済ニュース、特にアジア圏内の経済情報に関する事を注視をされて
アジア圏の経済趨勢と動向等に興味や関心を抱いて、また思考をされるように心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アジア貿易実務授業を通じて、アジア (中華圏) 貿易実務への理解の浸透を行い、認識を深めて頂き、
実践的貿易実務行動面での能力向上を目指し、履修生皆様が自分でも実行出来るという自信を深めて
頂くよう願っています。

講義担当者の45年間に亘る貿易業務実績に基づく貿易実務の基本及び実践面での具体的応用を授業の中に
組み入れ、実際に経験を致した多くの実例を挙げながら御理解頂けるように授業を遂行致して参ります。

キーワード /Keywords

RCEP, TPP11, 一带一路, 貿易クレーム。

ビジネス中国語【夜】

担当者名 /Instructor 彭 立君 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	◎	ビジネスで使用される基本的な中国語を身につける。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	日本語と中国語の言語表現の違いを理解した上で、コミュニケーションができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ビジネス中国語

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進む中、日本と中華地域との経済相互依存関係が強まる一方です。本講義ではビジネスで使われる用語やフレーズ、異なる表現の仕方やニュアンスの違いなど、様々なシチュエーションに応じて丁寧に説明致します。
 商習慣（例：中国のビジネス現場でも活用されているWeChatによるコミュニケーション）と文化背景の違いにまつわるエピソードも交えながら、ビジネス現場でよく使われる頻度の高いものを整理し、皆様主体で着実に会話を練習してまいります。

受講生全体の中国語レベルに応じて授業内容を調整する場合があります。

【DPに基づく到達目標】

- < 高度な専門的知識・技能 >
 ビジネスで使用される基本的な中国語を身につける。
- < 高い問題解決能力と表現力 >
 日本語と中国語の言語表現の違いを理解した上でコミュニケーションができる。
- < 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >
 様々なシチュエーションを想定し、文化や商習慣の違いを理解できる。

教科書 /Textbooks

各回で用語・フレーズ集、会話例、課題等の資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「改訂新版 紹文周の中国語発音完全マスター」

ビジネス中国語【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 四声、拼音を含めた発音練習
- 2回 中国語による自己紹介、Wechat導入
- 3回 発音練習【母音】、関連表現【人称代名詞、指示代名詞】
- 4回 会話練習【電話する】
- 5回 発音練習【子音：唇音、舌尖音、舌歯音】、関連表現【数字、中国語の地名】
- 6回 会話練習【場所確認】
- 7回 発音練習【子音：そり舌音、舌面音、舌根音】、関連表現【助詞、量詞】
- 8回 会話練習【オフィス用品の言い方】
- 9回 発音練習【軽音】、関連表現【日付、時刻】
- 10回 会話練習【時間確認、展示会申込】
- 11回 発音練習【変調】、関連表現【金額】
- 12回 会話練習【価格交渉】
- 13回 発表会【商品紹介（プレゼン）】
- 14回 発表会【クレーム処理（対話式）】
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

- 定期試験・・・30%
 日常の授業への取り組み・・・40%
 小テスト（4回）・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前課題を紙ベースで配布するので毎回参照し準備すること。
 各回に必要な学習時間については、予習60分、復習90分を参考目安とします。

履修上の注意 /Remarks

ある程度中国語を理解できる、もしくは簡単な会話ができる方の受講が望ましいです。「国際経営」を履修しておくことが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

間違っても気にせず話したい意欲を持つことが大事です。

キーワード /Keywords

経営学特講【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 海外ビジネススクールのカリキュラムに接し、その現地社会的ニーズへの対応を実体験する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 外国語による講義受講、卒業生ネットワークに接することによってコミュニケーション力を高める。
	新規事業技能	○ ビジネスの種、パートナーの発見ができ、国際的新規事業創出ができる能力を修得する。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	○ 異文化を実体験することによって相互理解の態度と協調的姿勢を修得する。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

経営学特講

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が急ピッチに進んでいる中、長期低迷に喘いできた地域経済を活性化させるために、広い視野を持ち、国際感覚を有するリーダー人材の育成が急務である。ビジネススクールが地域産業や社会を背負って立つリーダー養成の責務を担っており、海外ビジネススクールや現地系企業・多国籍企業等における訪問研修の機会（現場体験が可能な実践的教育プログラム）を学生に提供することによってコミュニケーション能力の向上と異文化交流の促進効果を高めると共に、グローバル的なビジネスの開拓・連携ネットワーク作りに寄与することを目指す。日本と強い相互依存関係にあり、高成長を継続させている東アジア地域の主要ビジネススクールを受け皿に選び、その支援により、現地における講義受講、現地企業の視察訪問と現地MBA経営者層との対面交流を通じて、国際感覚の養成、海外ビジネスの実体験、ビジネスネットワーク（人脈）作りに努める。

開講時期は夏季集中講義期間中の予定（2020年度はコロナ蔓延の影響を受け、海外訪問は実現できず休講したが、今年度は海外訪問が困難な場合、代替案として日本国内におけるグローバル企業訪問と特別講義を企画する（過去年度では5月末に訪問先を確定、今年度は海外案と国内代替案をともに公表する予定）

到達目標：

知識・技能 海外MBAコースの講義、現地企業視察、MBA院生（含修了生）との交流を通じて、国際ビジネスに関する高度な専門知識と現場感覚を学び取り、コミュニケーション能力を高めることができる。

態度・姿勢 異文化交流を実体験することで、相互尊重、相互学習の大切さを学び、海外に人的ネットワークを広げることにより、組織の持続的発展につながる国際協調姿勢、変革力を体得できる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しないが、事前に研修計画書、海外活動の注意事項（マニュアル）を作成し、配布する。事前説明会を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 研修先の紹介資料
- ・ 過年度海外研修の実績紹介資料
- ・ ビジネスマッチングのノウハウについての紹介資料
- 他に必要に応じて紹介する

経営学特講 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 出発前のオリエンテーション
- 2 現地ビジネススクール教員による特別講義I
- 3 現地ビジネススクール教員による特別講義II
- 4 現地企業経営者による特別講義III (パネル討議方式)
- 5 現地ビジネススクール開講講義の参観・傍聴
- 6 ビジネススクール在學生との交流イベントI
- 7 ビジネススクール卒業生との交流イベントII
- 8 現地系企業視察A
- 9 現地系企業視察B
- 10 現地 (日系) 企業視察C
- 11 現地外資誘致当局が経済団体ヒアリング
- 12 現地開発区参観
- 13 現地における研修成果共同発表& パネルディスカッション
- 14 研修レポート提出
- 15 帰校後の成果発表 (グループ)

成績評価の方法 /Assessment Method

準備・現地活動への参加度 70%
課題レポートの完成度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に必読資料を配布する予定
改めて指示する

履修上の注意 /Remarks

一定程度の語学力を自ら身につけることが望まれる
出発前に求められる準備事項に責任を持って取り組むこと
訪問先の文化・慣習や制度を尊重すること
集団参加のプログラムであるため、協調性を持ち、単独行動を取らないこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバル的視野を持とう！
異文化コミュニケーション力を養おう！
複眼的に物事を見る眼力を磨こう！

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		プロジェクト研究 I	

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名が当たる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する。

プロジェクト研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 研究倫理と経営倫理
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の報告会
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
								○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		
		プロジェクト研究 I	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

DPに基づく到達目標

<高度な専門的知識・技能>

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

<高い問題解決能力と表現力>

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

<高い倫理観に基づいた自律的行動力>

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する。

プロジェクト研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 研究倫理と経営倫理
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の報告会
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する。

プロジェクト研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 研究倫理と経営倫理
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の報告会
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		
		プロジェクト研究 I	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する。

プロジェクト研究I 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 研究倫理と経営倫理
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の報告会
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		
		プロジェクト研究 I	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名が当たる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する。

プロジェクト研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 研究倫理と経営倫理
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の報告会
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		
		プロジェクト研究 I	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名が当たる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する。

プロジェクト研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 研究倫理と経営倫理
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の報告会
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		
		プロジェクト研究 I	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する。

プロジェクト研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 研究倫理と経営倫理
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の報告会
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		
		プロジェクト研究 I	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名が当たる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する。

プロジェクト研究I 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 研究倫理と経営倫理
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の報告会
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させ、最終回にマネジメント研究科全体で報告会を実施する。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名が当たる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会で決定する。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する。

プロジェクト研究I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 研究倫理と経営倫理
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子およびその報告資料の作成と検討
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の報告会
【ディスカッション】【プレゼンテーション】【アドバイス】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に紹介する。

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・プロジェクトを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
								○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で第7回に経過報告会、第14回に成果報告会を実施する予定である（具体的な日時・場所等は後日調整のうえで連絡する）。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

プロジェクト研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 演習 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で第7回に経過報告会、第14回に成果報告会を実施する予定である（具体的な日時・場所等は後日調整のうえで連絡する）。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

プロジェクト研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
								○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で第7回に経過報告会、第14回に成果報告会を実施する予定である（具体的な日時・場所等は後日調整のうえで連絡する）。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

プロジェクト研究II【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン(研究課題)の再検討(問題意識の再確認)
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備(進捗状況の管理)
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成(進捗状況の管理)
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢(20%)、成果物であるプロジェクト研究報告書(60%)、報告会でのパフォーマンス(20%)によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で第7回に経過報告会、第14回に成果報告会を実施する予定である（具体的な日時・場所等は後日調整のうえで連絡する）。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

プロジェクト研究II【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 2学期 2学期 /Class Format 授業形態 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で第7回に経過報告会、第14回に成果報告会を実施する予定である（具体的な日時・場所等は後日調整のうえで連絡する）。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

プロジェクト研究II【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン(研究課題)の再検討(問題意識の再確認)
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備(進捗状況の管理)
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成(進捗状況の管理)
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢(20%)、成果物であるプロジェクト研究報告書(60%)、報告会でのパフォーマンス(20%)によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
								○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で第7回に経過報告会、第14回に成果報告会を実施する予定である（具体的な日時・場所等は後日調整のうえで連絡する）。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

プロジェクト研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
								○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で第7回に経過報告会、第14回に成果報告会を実施する予定である（具体的な日時・場所等は後日調整のうえで連絡する）。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

プロジェクト研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
								○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で第7回に経過報告会、第14回に成果報告会を実施する予定である（具体的な日時・場所等は後日調整のうえで連絡する）。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

プロジェクト研究II【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
								○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、本年度についてはマネジメント研究科全体で第7回に経過報告会、第14回に成果報告会を実施する予定である（具体的な日時・場所等は後日調整のうえで連絡する）。

DPに基づく到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

マネジメント等に係る高度な専門的知識を自らの実践的なテーマに活用できること

< 高い問題解決能力と表現力 >

自らの実践的なテーマを適切に分析し、問題解決に向けた説得力のある提案ができること

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

研究・経営倫理を踏まえた実践的かつ自律的な行動を促す分析・提案ができること

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

プロジェクト研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～② リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】【分析のフレームワーク】【仮説の設定】
- ③～⑥ 調査研究の実施・報告および経過報告会の準備（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】
- ⑦ プロジェクト研究経過報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑧～⑬ 調査研究の実施・報告および報告書・報告会資料の作成（進捗状況の管理）
【質疑応答】【討議を繰り返す】【文章力】
- ⑭ プロジェクト研究報告会の実施
【プレゼンテーション】【表現力】【説得力】【論理的思考】【アドバイス】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【文章力】【新規性】【独自性】【論理的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（20%）、成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）、報告会でのパフォーマンス（20%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読文献を事前に配布し、指示する

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords